

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

創成部

結義信國

結義信國

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	01	後 期	2 単位	今 西 俊 次
【講義概要・学習目標】 体育・スポーツ・レクリエーションは、現代社会において多様な価値をもっている。たとえば、今日のように“豊かで快適で便利な社会”になっても、人間は“動く物”であることを否定できない。“健やかに生きる”ということは、個人、家庭および社会にとって重要な課題であり、適度な運動は生涯を通して必要である。 本講義では、今日的な健康問題が発生する要因とその処方、日本と欧米のスポーツ事情、スポーツと社会・文化の関連等についての理解を深め、現代社会における体育・スポーツの役割と意義について考える。	【講義計画】 I. 現代生活と健康・体力 1. 現代生活の特徴 2. 生活習慣（運動・栄養）と健康 3. 体重・体組成（体脂肪率）と健康 4. 運動とからだ 5. 体力づくりの理論的基礎 6. 体力づくり（アロビクスとイロビクス）の方法 II. 現代社会とスポーツ 1. 諸外国（欧米）における体力づくりの歴史 2. 日本におけるスポーツ・レクリエーションの現状と課題			
【成績評価の方法】 レポート、テストなどによって総合的に評価する。	【参考文献】 石河利寛（著）『スポーツと健康』（岩波新書） クラウス 他（著） 広田公一他訳『運動不足病』（ベースボール・マガジン社） 中村敏雄（著）『スポーツの風土』（大修館書店）			
【教科書】 資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	02	前 期	2 単位	コ ソ ン ハ 高 成 廈
【講義概要・学習目標】 現在では、“健康をWEIINES”（良好な状態）とらえる考え方が大勢を占めている。“WEIINES”は、個人の責任や管理のもとで、最適な健康を求めるライフスタイルとみなされている。したがって、健康は、できる限り良好な状態を実現するために生涯にわたって行われるアプローチである。 現代社会における健康についての問題点を十分に認識し、健康であることの意義を深く考え、健康的な生活習慣の確立と実践をねらいとする。	【講義計画】 I 現代生活と健康・体力 1. 都市生活と健康 2. スポーツと健康 3. 体力づくりの理論 4. 体力づくりの方法 II 現代社会とスポーツ 1. 現代社会の特徴とスポーツ 2. 日本の体育・スポーツ行政の現状 3. 日本のスポーツ施設の現状と問題点 4. 諸外国のスポーツ事情			
【成績評価の方法】 期間内テスト2回を課して評価する。	【参考文献】			
【教科書】 資料をプリント配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	03	後 期	2単位	高 橋 ひとみ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>便利で快適な生活を送ることが可能となった現代社会において、今、最も求められているものは「健康」であるといっても過言ではない。「健康」は私達の幸福の源であり、良い人生を過ごすための基本的条件である。ところが、科学的進歩に伴い生活が便利になった反面、身体的活動の減少により「運動不足病」が蔓延し、「健康」とはいいがたい人々が増加してきている。このような現代社会を考えると、身体的・精神的・社会的な面において、スポーツの果たす役割が大きいといえよう。ストレス社会を迎え、時代のキーワードともいえる「健康」について、そして「健康」生活をおくるうえで欠くことのできない「スポーツ」について学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>まず、第Ⅰ章では、現代社会におけるスポーツの意義や問題、年齢・性に応じたスポーツのあり方とその方策、個人に適した運動の科学的な理論と処方、スポーツ実施における傷害対策などを学習する。</p> <p>第Ⅱ章においては、「人生80年」と言われる長い生涯を健康でいきるために健康を阻む社会問題を知るとともに、食生活や治療技術などの新しい知見についての学習をする。</p> <p>また、現代社会に即応した身近な問題として考えていくために、適宜、雑誌・新聞記事などを資料として使う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験および小テストにより成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「みんなのフィットネス」 前橋明編著 明研図書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「みんなの健康科学」 前橋明監修 明研図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	04	前 期	2単位	永 谷 峯 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>体育・スポーツには、さまざまな要素が含まれています。それは、個人の健康や体力から社会や経済との関わりなどに広がります。言い換えると、チャンピオンを目指す選手やスポーツを楽しむ人々から、スポーツ政策やスポーツ産業までさまざまです。当然のように受け止めている今の便利な生活は、運動不足による現代病をひきおこす大きな要因です。ストレス社会でもあります。また子供達や青少年の体力低下が指摘されて久しいものがあります。それは、生活習慣全般から考えなければなりませんし、これからは自己の責任と管理が必要なことは当然なことでしょう。スポーツには、楽しみを主眼としたみんなのスポーツから、チャンピオンを目指すエリートスポーツまでさまざまです。また、するスポーツと観るスポーツもあります。そして、オリンピック等に代表される組織や大会は、ナショナルリズムやビジネスにも繋がっています。本講義では、二つのポイントをもって開講します。一つは健康論の基礎として、もう一つは社会・経済・文化等の側面から考察します。諸君が体育・スポーツにたいして、自ら考えるとともに、実践する契機としての講義を目指します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>Ⅰ スポーツと健康</p> <p>①からだはどうか</p> <p>②生体のリズムと生活</p> <p>③スポーツとストレス</p> <p>④スポーツの功罪</p> <p>⑤身体運動・体力づくり</p> <p>Ⅱ スポーツと社会</p> <p>①スポーツの歴史</p> <p>②世界のスポーツ事情</p> <p>③日本のスポーツ事情</p> <p>④スポーツとお金</p> <p>⑤スポーツは楽しいものなのか、そしてみんなのスポーツ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートとテストで評価します 出席点を加えます</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中村俊雄・出原泰明・等々力賢治（共著）『現代スポーツ論』（大修館）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は指定しません。必要な資料はプリント配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	05	前期	2単位	長谷川 修一郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>機械文明が高度の発達した現代社会は、便利で安楽な生活環境を創り出した。一方、1970年頃から「青少年のからだがおかしい」と実感されるようになった。1994年に本学体育担当者の共同研究で全国の大学体育教員、養護教員、医師を対象に「大学生のからだのおかしさ」を調査した。その結果、「アレルギー疾患、すぐに疲れたという、すぐにしゃがむ、視力低下、腰痛、首筋が張り肩が凝る、風邪を引きやすい」等の症状が指摘された。</p> <p>動物としてのヒトは動くことを宿命づけられており、動くことによって生命が維持されているのである。まさに調査の上位に並ぶ大半の症状は絶対的な運動不足の結果であり、「運動不足病」と言われている。</p> <p>そこで本講義では、便利で安楽な生活環境における健康・体力の獲得に向けた生活習慣の見直しを共に考えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、序論 2、健康概念の拡大 3、現代生活と健康・体力 4、生活の中での体力づくり 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>単元ごと的小テストと最終日のテストを行いその総合点で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は指定しないが単元ごとに資料を配布する。</p>				

【概要】

「体育・スポーツ学実習（Ⅱ保健体育実技）」は、「健康トレーニングコース」「スポーツ文化コース」「シーズンスポーツコース」「障害者スポーツコース」「レクリエーション・スポーツコース」「スポーツトレーニングコース」から成り、種目別にクラスは編成される。各自、種目を選択し、予備登録ならびに履修登録すること。

なお、予備登録の方法については、別紙『「体育・スポーツ学実習」予備登録要領』を参照すること。

A. 健康トレーニングコース

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
エアロビクス、ボディビルディング	全	半 期	12講時＋レポート
トータル・ボディ・シェイプアップ	女	半 期	

B. スポーツ文化コース

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
バレーボール、バスケットボール、水泳 硬式テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ	全	半 期	12講時＋レポート
サッカー、ハンドボール、ソフトボール 軟式野球、室内サッカー	男		
女子トリム・ソフトボール	女		
剣道、柔道、ラグビー、スケート アーチェリー	休 講		

- ※1. 女子学生は、原則としてサッカー、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーの登録は認めない。
 2. ゴルフは打球費を必要とする。
 3. 硬式テニス、サッカー、バドミントンに経験者クラスを設ける。

C. シーズンスポーツコース

- スキーは、学内でストックワークなどの自主トレーニングを行い、2月中旬にスキー場で集中実習を実施する。
- 集中硬式テニス（初級者）・（経験者）は、9月上旬に集中実習を実施する。

種 目	期 間	場 所	参 加 費	手 続	備 考
スキー	2月中旬 (4泊5日)	戸隠スキー場	約34,000円 (リフト代含)	11月	01, 02クラス
集中硬式テニス (3日間)	①9月1～3日 ② 6～8日	学内テニスコート	な し	7月	初級者クラス 経験者クラス
集中ゴルフ	休 講				

- ※1. 上記参加費以外に、旅費、交通費などの経費を必要とする。
 2. スキーでは、交通費、スキーレンタル代、その他も必要である。
 3. 硬式テニスの実施期間①は初級者クラス、②は経験者クラスである。
 4. 硬式テニスは他の集中講義と重複して履修できないので注意すること。

D. 障害者スポーツコース

障害者スポーツコースは、個人の体力や能力に応じて運動処方する。主に身体虚弱者、肥満者、身体障害者および肢体不自由者などを対象とする。(このコースを希望する場合には、事前に体育課へ申し出ること)

なお、本コースに関心のある者の受講も認める。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
身障者スポーツ	身体障害者等	半 期	12講時+レポート

※対象者以外で受講を希望する者は、体育課で相談すること。

E. レクリエーション・スポーツコース

種 目	対 象	開講期間	単位認定基準
キャンプ、カヌー、レクリエーション・スポーツ		休	講

F. スポーツトレーニングコース

このコースは、主として体育会に所属している学生を対象としているが、それ以外の一般学生の中でスポーツに関心のある学生の受講も認めている。内容は、専門的にスポーツを実践し、指導するのに必要なスポーツ科学の理論と実技を学習する。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
スポーツトレーニング	体育会に所属している学生および一般学生	半 期	12講時+レポート

〈実習受講に関する注意〉

(1) 単位認定

開講時間は12講時（24時間）+レポートを原則とする。

(2) テキスト

必要に応じて指示する。

(3) 服 装

服装はトレーニング・ウェア（水泳クラスは競技用水着・帽子・ゴーグル）を着用し、グラウンドではグラウンドシューズ、テニスコートはテニスシューズを使用すること。体育館・トレーニングルームにおいては、上ばき（体育館シューズ）を使用し、グラウンドシューズとの兼用は認めない。

(4) 更 衣

指定された場所で更衣し、盗難防止のため貴重品は、各自、ロッカーに保管すること。特に前期・後期の授業開始直後は盗難が多い。

(5) 教 場

グラウンド、コートなどの条件や行事によって、教場を変更する場合がある。毎時間掲示を確認すること。

(6) 用 具

スポーツコースの用具は貸与するが、できるだけ各自で用意することが望ましい。シーズンコースについては実習時に必要な用具は各自で用意すること。

(7) 体育館シューズ

体育館内で行う種目は、自分で体育館シューズを準備すること。

《注意》

更衣は指定された場所で行うとともに、必ず荷物をコインロッカーに入れ施錠すること。前期初めおよび後期初めの約1ヵ月間は特に盗難が多発している。また、スポーツシューズの盗難も多いので注意すること。

〈欠席の取り扱いについて〉

- (1) 理由のある欠席届があれば2回までの欠席は認める。ただし、無届け欠席を2回するとその時点で受講を取り消す。
- (2) ・クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等、およびゼミ合宿等による欠席は、クラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により公欠とする。
 - ・4回生以上の就職活動（会社訪問・受験）については、就職課の証明により公欠とする。
 - ・忌引については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きすること。
- (3) 体育実習の見学（例：風邪、腹痛、頭痛、服装の忘れ物等）は、原則として認めない。

〈施設・用具の利用について〉

授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止する。ただし、教場の空いている場合には、体育実習の自学自習およびスポーツ活動の恒常的実践化奨励のため、施設の開放と用具の貸し出しを行うので希望者は体育課窓口に出ること。

使用可能場所・時間帯については体育館内掲示板で確認すること。ただし、雨天の場合は屋外で行う授業の代替教場として使用するので、館内施設の利用は一時中止する。

〈集中コース種目のガイダンスについて〉

集中コースの授業は、それぞれ事前にガイダンスを行うので必ず出席すること。授業と重なる場合は体育課窓口で相談すること。場所については追って掲示する。

- (1) 集中硬式テニス（初級者）・（経験者）
6月15日（火） 5時限目
- (2) スキー
10月28日（木） 5時限目

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題 I (人権問題概説)	01	後 期	2 単位	寺 木 伸 明
【講義概要・学習目標】 本講義では、人権問題について概論的に説明することになる。まず、現代における人権・人権問題とは何かを考え、つづいて世界と日本における人権思想のあゆみをふりかえる。 その上で、現代の世界と日本の社会に存在する人権問題の種類や実態について、ビデオ教材を用いながら具体的に検討する。 そうした人権をめぐる状況をふまえて、人権問題の解決・人権意識の確立が、平和の達成や社会福祉の充実および地球の環境保護などにとっていかに重要な課題であるか、また、この問題の解決がいかに自分自身の問題であるかということをも明らかにしていきたい。 最後に、こうした人権問題をどのようにすれば解決できるのか、その見通しはどうか、といった問題について議論をして深めていきたい。	【講義計画】 1. 人権とは何か 2. 人権問題とは何か 3. 人権思想の歴史 4. 世界における人権問題（インドのカースト差別、ユダヤ人差別、黒人差別など） 5. 日本における差別問題（部落問題、在日朝鮮人問題、障害者問題、女性差別問題、アイヌ差別問題など） 6. 人権問題の解決の課題と展望			
【成績評価の方法】 テストの結果を成績評価の基本とする。 時々課す小レポートも、考慮する。	【参考文献】			
【教科書】 村田恭雄『日本の差別・世界の差別――差別の比較社会論』（明石書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題 I (人権問題概説)	02	前 期	2 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 1948年12月に国連が採択した「世界人権宣言」は、その第1条において「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」とうたっている。まことに高邁な理想であるが、こうした理念が現実化していないことは誰の目にも明らかであろう。 そこで、上記のような理念と現実の諸社会に生きている人びとの現実の間には、どのような問題があるのか。そうした「苦悩の現実」を解決するために、どのような取り組みがなされているのか。そうした諸点をできるだけ幅広く解説していくことにする。	【講義計画】 (1) 「国際人権」という考え方 (2) 難民問題と人権 (3) マイノリティー・グループをめぐる諸問題 (4) 地球の環境をめぐる (5) 個別の諸問題			
【成績評価の方法】 学年末に実施する「論術式筆記試験」が60%。講義期間中に教室で実施するレポート等が20%。質問や問題提起などによる日常活動が20%。	【参考文献】 そのときどきに指示します。			
【教科書】 上田正昭編『ハンドブック・国際化のなかの人権問題』明石書店 1998 2500円				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ (人権の思想と歴史「世界」)	01	前 期	2単位	尾本 恵市
	02	後 期	2単位	
【講義概要・学習目標】 民族はヒトの文化による区分で人種は生物学的な区分であるといわれる。しかし、はたしてそれでよいのか？古典的な人種概念には多くの問題点がある。たとえば、わが国の先住民族集団であるアイヌはかつては「白人」であるとされていた。この講義では、人種分類の誤りや問題点を指摘し、生物学的な概念としての人種はもはや成立し得ないことを示す。しかし、ヒトが世界中の多様な環境に適応している特異な点も忘れてはならず、地理的多様性に関する研究には意味がある。しかし、それはかつての人種学のように差別にむすびつくものであってはならない。この講義は、ヒトの地理的多様性の研究と人種概念の変遷、さらに人種差別の歴史を通観することによって、人権を考える上で必要な基礎知識を与える。	【講義計画】 今世紀前半までの古典的な人種分類について講義した後で、今世紀後半からのヒトの地理的多様性に関する新たな研究方法を日本人の起源研究を例にして解説し、さらに人種差別の撤廃に向けての国際的な取り組みの現状についても講義する。			
【成績評価の方法】 出席点およびレポートによる。	【参考文献】 寺田和夫 「人種とはなにか」 岩波新書(1967) 沖浦和光 「日本文化の源流を探る」 解放出版社(1997) 尾本恵市 「分子人類学と日本人の起源」 裳華房(1996)			
【教科書】 担当講師の自著論文等をプリントとして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ(人権の思想と歴史「世界」)	03	前 期	2単位	柳 父 章
【講義概要・学習目標】 / 権の思想や運動は西洋が始まり、やがて人権宣言や憲法などの形で世界に広まった。日本の人権についての考えも、近代以後の西洋からの翻訳文化として考えられることが多い。さらに、アジアの仏教にも、人権と似た考え方を探ることができ、それが仏教の歴史とどのような関係にあるかを考えてみる。	【講義計画】 自由と平等という二つのテーマをとり、それぞれの思想的背景、歴史を考へる。人権を個人の自由を中心とするものとして西洋に由来し、現代でも西洋特有の文化と考へる。又、仏教の平等思想と似た考え方もあり、今日でもカースト制と対立している。他に、アジア的人権というべき主張が、今日の課題として問題にされていることも考へていく。			
【成績評価の方法】 期末の筆記試験。文章題三題の予定。	【参考文献】			
【教科書】 杉原泰雄『人権の歴史』 岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ（人権の思想と歴史「世界」）	04	後 期	2 単位	柳 父 章
【講義概要・学習目標】 人権の思想や運動は西洋に始まる。 やがて人権宣言や憲法などの形で世界に 広まる。日本の人権についても、近代 以後の西洋からの審判官文化として検討視 点が重要である。 さらに、アジアの仏教にも、人権と似た考 え方を採ることができ、それが仏教の歴史 とどう関係しているのかも検討したい。	【講義計画】 自由と平等という二つのテーマをたて、それ ぞれの思想的背景、歴史を考へる。 人権を個人の自由を中心とした考へ方と 西洋において、現代でも西洋特有の文化 と言ふ。 又、仏教にも平等思想と似た考へ方 があった。今日でも、カースト制と 関連している。他方、アジア的 人権というべき主張が今日の課題 として問題視されていることも考へて いきたい。			
【成績評価の方法】 期末の筆記試験、文章題の予定。	【参考文献】			
【教科書】 杉原泰三『人権の歴史』岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅲ（現代社会と人権）	01	前 期	2 単位	巖 圭 介
【講義概要・学習目標】 この講義では人権問題としての環境問題をあつかう。 「どの世代もこの地球を自由にしようという権利はない。われわれは1代限 りの借家人である。」これは1988年10月イギリス保守党大会におけるサッチャ ー元首相の演説である。このような認識が1988年頃から急速に各先進国に広が ったにもかかわらず、地球環境は急速に悪化しさまざまな問題が表面化してい る。環境破壊は、現時点でもさまざまな人権侵害を含んでいると同時に、未来 の人類の生存を脅かすという意味においてわれわれの子孫に対する人権侵害で もある。 この講義では人権問題という位置づけでさまざまな地球環境問題を紹介す る。内容的には巖が担当する他の講義（環境問題概論）と重なる部分が多いこ とをあらかじめ了解していただきたい。	【講義計画】 おおむね次のようなテーマに沿って進行する。 ・人口の移動と森林破壊 ・戦争と環境破壊 ・ゴミの処分をめぐる争い ・先進国と途上国の責任 ・未来の世代のために			
【成績評価の方法】 論述式の期末試験に加え、授業中に数回提出してもらった感想文により判定す る。	【参考文献】 必要に応じて授業中に示す			
【教科書】 とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅲ（現代社会と人権）	02	前 期	2単位	寺 木 伸 明
	03	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] 現代の日本社会には、部落差別、在日朝鮮人差別、女性差別、障害者差別、アイヌ差別などの差別問題の他にも、学校におけるイジメ問題、高齢者問題、児童虐待の問題、外国人労働者問題そして環境問題などさまざまな人権問題が存在している。いうまでもなく、こうした諸問題の解決は、いずれも基本的人権にかかわる重要な課題である。 本講義では、人権問題の今をとりあげ、検討したい。そして、それらの人権問題がどのような影響を個人と社会に及ぼしているのか、その解決をめざしてどのような取り組みがなされているのか、できるだけ視野を世界に広げて考えてみたい。講義は、ビデオ教材を活用して、具体例をあげながら進めたい。	[講義計画] 1. 現代社会における人権とは何か 2. 差別と人権 3. 環境と人権 4. 戦争と人権 5. 日本国憲法と基本的人権 6. 人権をめぐる国連の取り組み 7. 国際的な人権確立を求める潮流の現況			
[成績評価の方法] テストの結果を成績評価の基本とする。 時々課す小レポートも、考慮する。	[参考文献]			
[教科書] 柳瀬睦男他著『現代社会と人権――女性・障害・死刑…』（新幹社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅳ（在日韓国・朝鮮人問題）	01	前 期	2単位	キム スギル 金 秀 吉
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] 現在、約65万人の韓国・朝鮮人が日本に定住している。この定住者を一般的に「在日韓国・朝鮮人」と称している。また、時には略して「在日」とも言われる。 本講義を担当する私自身は在日3世であり、その体験もふまえながら、在日韓国・朝鮮人の〈過去・現在・未来〉を出来るだけ具体的に提示し、その理解と認識を深めてゆく。 その方法として、これまで在日韓国・朝鮮人を素材・またはテーマとして作られた映画〈自作『潤（ユン）の街』を含む〉や、テレビ・ビデオなどの映像作品をテキストとして利用することにより、在日をとりにまく状況がより具体化され、学生各自が身近なところから実践的に、在日韓国・朝鮮人問題の基礎を探求してゆく。	[講義計画] 1. 在日韓国・朝鮮人とはなにか 2. 在日の歴史 3. 在日の現状 4. 在日韓国・朝鮮人はどのように表現されたか 5. 在日韓国・朝鮮人をどのように表現するか 6. 在日韓国・朝鮮人の未来と展望			
[成績評価の方法] 適宜、講義の終了時に感想文またはレポートを書いてもらい、それを平常・出席点とする。それと期末テストを総合して評価する。	[参考文献] 蔵田雅彦（著）「マイノリティを旅する」（草風館） 蔵田雅彦（著）「隣人としてのアジア」（日本基督教団出版局） 田中宏（著）「在日外国人」（岩波新書） 原尻英樹（著）「『在日』としてのコリアン」 福岡安則（著）「在日韓国・朝鮮人」（中公新書） 鄭早苗・徐正苑（監修）「新・より良き隣人として」（K M J 研究センター） 桃山学院大学（編）「定住外国人の人権」（改訂版）（桃山学院大学）			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅴ（障害者問題）		後 期	2 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 世の中の障害のある人も障害のない人も、それぞれ自分なりの生きる目標がもてて、生きかいかのある充実した人生のおくれる社会にするための考え方を「ノーマライゼーション」と呼んでいる。 その場合、障害のある人が思うだけ「社会に参入」していくためには、それにふさわしいシステムを社会の側で用意しなければならない。だが、それだけでは、たぶん、十分ではない。障害のある人も、ない人も、それぞれの側から望ましい「共生社会」がどのようなかを見きわめながら、その方向にむかっての、双方からの工夫と努力が必要となってくる。そうした意味での「工夫」と「努力」はどのようなもので、いかにして、それらを行なうかを考えることにしたい。	【講義計画】 障害者の登場する映画をビデオで観て、障害者がどのように映像化されてきたかを考える。そのうえで、その論点や課題を教室でレポートにまとめてもらったり、ディスカッションしたりする。			
【成績評価の方法】 学期末に実施する「論述式筆記試験（60％）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（20％）」、質問・問題提起などによる「日常参加（20％）」。	【参考文献】 そのときどきに指示します。			
【教科書】 とくには指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅵ（部落問題）	0 1	前 期	2 単位	寺 木 伸 明
	0 2	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 本講義では、まず、人権とは何か、人権問題とは何かを考え、そして部落問題にかぎらず人権問題の解決がなぜ各人の課題になるのかについて検討する。次に、部落問題をなぜ学習するのか、その理由と意義について考える。こうした基礎的理解の上にならって、被差別部落の現状や部落差別の実態について具体的に説明する。つづいて、こうした差別がいつごろ、どのようにして始まり、どのように変遷してきたのか、また、厳しい差別の中を部落の人々がどのように生き、闘ってきたのかを明らかにしながら、部落解放の展望についても考えていきたい。講義は、ビデオ教材を活用して、具体例をあげながら進めたい。	【講義計画】 1. 人権・人権問題とは何か 2. 部落問題とは何か 3. 被差別部落の現状と部落差別の実態 4. 被差別部落に生きて（ゲスト講師予定） 5. 被差別部落の歴史 6. 部落解放運動の歴史 7. 部落解放の課題と展望			
【成績評価の方法】 テストの結果を成績評価の基本とする。 時々課外小レポートも、考慮する。	【参考文献】 小林 茂編『人権のあゆみ』（山川出版社）			
【教科書】 解放出版社編『部落問題 資料と解説』（解放出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題VI (女性問題)		後 期	2 単位	生 瀬 克 己
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>多くの人びとは、たがいの異性ととも生きてきた。しかし、その形はその時々で違っていた。そして、近代になって、男女平等がさげられるが、他方では、男性は社会で働く女性は家庭で家事・育児をするという性別役割が固定化していく。だが、女性が社会に出て活動するのが当たり前の社会になってくると、こうした形態は不都合が多くなっていく。とくに、女性にとってはそうである。そして、それは、男性にとっても「息苦しい」ものである。そこで、男女のそれぞれが精一杯に生きていける社会とはどのようなものかということを考えていきたい。</p> <p>したがって、われわれ、ひとりひとりのなかでの「共生」の課題を発見していくことが目標である。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに――「女性」のことがなぜ問題にされたのか？ 2 前近代の身分と人びとの暮らしと働きかた 3 性別役割分業の社会 4 「男らしさ」と「女らしさ」 5 女性の働く場の現実 6 おわりに――われわれの現実と目標 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>学期末に実施する「論述式筆記試験（60％）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（40％）」の合計点で評価する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>そのとどきに指示します。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>とくには指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（海域アジアの森と海の文化）		前 期	2 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 「海域社会」という観点からアジアの社会を見直してみる。常識つまり「陸域」中心の観念から自由になることによって見えてくる重要な事柄がいくつかある。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」であり、その海が「生活者の海」であり、海のシルクロードの大幹線が通っているからである。「島の熱帯」の森と海は、国際交易と結びついていっそう重要性を明らかにする。この世界のモンスーンの支配性もまた重要である。こうした海域社会を理解するためのいくつかの手掛かりを考える。 授業はビデオを多用する。映像によって東南アジアの森と海の様々な側面とそこに生きる人々の多様な姿を観ることを通して、その文化の有り様を考えてみたい。		【講義計画】 1. 「島の熱帯」の生態学 熱帯雨林の特徴／その人間にとっての意味／居住適地 2. モンスーン 風向と季節／その重要性 3. 「海域社会」 その特徴／「海域アジア世界」の中の東南アジア／史的展開		
【成績評価の方法】 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。		【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃図R292.3〕 門田修『海が見えるアジア』めこん 1996〔桃図A292.09〕 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.9〕 その他教室で時々指示する。		
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（インドの叙事詩）		前 期	2 単位	小 林 信 彦
【講義概要・学習目標】 遙か昔から今日までインド人に親しまれている二大叙事詩を取り上げる。『マハーバーラタ』は世界最大の叙事詩であり、全編で20万行から成る。皇位継承をめぐる従兄弟同士の争いの物語であるが、10日間の凄惨な最終戦争に至る対立の経過が登場人物の幼児期に溯って語られる。また、『ラーマーヤナ』はインドの国民的英雄ラーマの物語である。皇位継承を妨害されて国を追われたラーマは、旅に出て数々の試練を切り抜けた後に帰国し、国民から圧倒的な支持を受けて皇位に就く。		【講義計画】 まず、叙事詩の挿話の一つである『ナラ物語』を翻訳で読み、次に二つの大叙事詩を日本語要約で読む。反復という見地から作品の構成を検討し、インドの叙事詩がもともと口頭で伝承されてきたことを明らかにする。		
【成績評価の方法】 ① 三つの作品について、それぞれ要約を提出させる。 ② 小論文を書かせる。 ③ 学年末に試験を行う。		【参考文献】		
【教科書】 ① 鑑淳訳、『ナラ物語』（岩波文庫） ② 奈良毅他訳、『マハーバーラタ』上、中、下（レグルス文庫） ③ 河田清史訳、『ラーマーヤナ』上、下（レグルス文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (インドの社会と文化)		後 期	2 単位	小 林 信 彦
[講義概要・学習目標] 10億の人口を擁するインドは、15の言語が公用語として憲法で認められていて、近代国家に不可欠なはずの国語がない。また、民族宗教とも言うべきヒンドゥー教の外に、全く異質な外来宗教であるイスラム教も各地に深く根を下ろしている。インドは極めた多様性に富む文化圏である。ところが一方では、数千年にわたって続く強い伝統文化があり、非常に安定した特異な社会組織があって、インド世界の文化的統一性を支えている。	[講義計画] この科目の目標はインドに関する正確な基礎知識を身につけることであるが、伝統的な社会と文化という視点からこれを試みる。			
[成績評価の方法] ① 三週間ごとに講義内容の要約を提出させる。 ② 学期末に試験を行う。	[参考文献] 必要があれば授業中に指定する。			
[教科書] なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (国際理解をめざして)	0 1	前 期	2 単位	野 尻 亘
	0 2	後 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] 今日、日常生活においても、産業活動においても国際的な交流はますます盛んとなっている。しかし、現実の世界では、一方では、地域紛争や諸民族の対立、地球規模での環境問題もますますはげしくなっている。 このような中で、まず私たちが大学生として、世界市民として、国際的な諸問題をどのように理解していったらよいのか。具体的なテーマをもとに解説していくこととしたい。 同時に、大学入学直後のガイダンスをかねた内容とする。	[講義計画] 1. 日本と外国の大学の違い 2. 大学生としての生き方と情報処理のしかた 3. 高校までとは違う大学生としての勉強のしかた 4. 図書館の効果的な使い方 5. アメリカ大都市における民族問題 6. モノカルキュチャー経済からの自立 ラテンアメリカ諸国の苦悩 7. アフリカ 人口・食糧不足・難民問題 8. ヨーロッパ EUへの地域統合への模索 9. CIS シベリア開発の困難 10. 急成長するアジア経済 11. 日本、東と西・北と南、多様な自然環境と文化 12. 日本、高度経済成長から持続的発展へ 今後の私たちの課題			
[成績評価の方法] 試験にするか、レポートにするかは授業の進度および履修状況をもとに決定する。	[参考文献] この授業は総合的な内容であるから、毎時間ごとに必要に応じて参考文献を紹介する。			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（ベトナムの文化）	01	前期	2単位	片 倉 穰
	02	後期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>この講義では、ベトナムの文化について多面的に考察する。ベトナムは、東南アジア地域を構成する一つの民族・国家であり、東南アジアのなかでも歴史的・文化的に日本と深いかかわりをもってきた。本年度は、ベトナムと日本の歴史的・文化的関係を視野に入れつつ、ベトナムを理解するための一助となるような講義を進めたい。</p> <p>いま日本人は、ベトナムの動向に関心を寄せているが、この民族と文化を理解することは、日本に生きている人びとやその文化を相対化することにもなり、有意義な学問的営みであろう。</p>		<p>(1) はじめに —— ベトナムを考える (2) 日本人のベトナム研究 (3) ベトナムの神話 —— 比較文化論の試み (4) ベトナムの龍崇拝 (5) ベトナムの女性 —— チュン姉妹の戦いを通して (6) ベトナムの民族意識 (7) ベトナムの文学 —— 古典文学 (8) ベトナムの食文化 (9) おわりに —— 講義の総括</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>期末試験等により評価する。</p>		<p>アジア・アフリカ研究所編『ベトナム』上・下、水曜社、1977・1978年 吉沢南『ベトナム 現代史のなかの諸民族』朝日新聞社、1982年 桜井由躬雄編『もっと知りたい ベトナム』弘文堂、1989年</p>		
[教科書]				
<p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ（アメリカン・ドリーム）	01	前期	2単位	谷 本 泰 三
	02	後期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>「アメリカン・ドリーム」をテーマにして初期のアメリカの歴史を見て行く。最初ヨーロッパからアメリカ大陸へ移住してきた人達はどのような夢を抱いて、果てしない大海、大西洋を渡ったのだろう。夢を実現しようとして、どの様な努力をし、どのような苦労があったのだろう。栄光と挫折が交錯する様子を、見ながら初期の歴史を辿る。「アメリカン・ドリーム」を許されなかった人たちの現状にも注目する。</p>		<p>1 序論 2-4 Puritan たちの夢と現実 5-7 Puritanism からの離脱 新国家建設への夢 8-9 独自の文化樹立への夢 10-11 アメリカン・ドリームの外に立たされていた人たち 12 予備</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>期末試験</p>				
[教科書]				
<p>Winton U. Solberg (著) <i>A History of American Thought and Culture</i> (金星堂) 谷本泰三(著)『講義アウトライン』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ (映像で見る世界の民族)		前期	2 単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] われわれ日本人は世界の多様な民族や文化についてもっと知らねばならない。そのための第一歩として、「百聞は一見にしかず」というように、映像によって世界の様々な民族集団の生活を視覚的にとらえるのがよい。文化の多様性のみならず、ヒトは様々な環境条件のもとで身体的にも著しい地理的多様性を示す。この授業では、学生に、ヒトの文化的・身体的多様性に関心を持ち、人種や民族に対する差別がいかに根拠のないものであるかを理解してもらうことを目標とする。	[講義計画] 原則として隔週、世界の様々な民族集団に関する映像記録（ビデオまたはスライド）を見て、感想を簡単なレポートに書き提出する。次の週には皆のレポートの意見を基にいくつかの問題点を設定し、ディスカッションを行う。なお、前期にはとくにアフリカとヨーロッパ地域に、また後期にはとくにアジア・太平洋およびアメリカ地域に重点をおき、主として先住民の集団の映像を扱う。			
[成績評価の方法] 出席およびレポートによって採点するが、ディスカッションへの積極的な参加をも重視し、加点する。	[参考文献] 川田順造 編 「アフリカ論」 新書館（東京） （1999, 3月刊行予定）			
[教科書] 未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ (アジア・太平洋の民族)		後期	2 単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] われわれ日本人は世界の多様な民族や文化についてもっと知らねばならない。そのための第一歩として、「百聞は一見にしかず」というように、映像によって世界の様々な民族集団の生活を視覚的にとらえるのがよい。文化の多様性のみならず、ヒトは様々な環境条件のもとで身体的にも著しい地理的多様性を示す。この授業では、学生に、ヒトの文化・身体的多様性に関心を持ち、人種や民族に対する差別がいかに根拠のないものであるかを理解してもらうことを目標とする。	[講義計画] 原則として隔週、世界の様々な民族集団に関する映像記録（ビデオ・スライド）を見て、感想を簡単なレポートに書き提出する。次の週には皆のレポートの意見を基にいくつかの問題点を設定し、ディスカッションを行う。なお後期の授業では特にアジア・太平洋およびアメリカ地域に重点をおき、主として先住民の集団の映像を扱う。			
[成績評価の方法] 出席およびレポートによって採点するが、ディスカッションへの積極的な参加をも重視し、加点する。	[参考文献] その都度指定する。			
[教科書] なし。必要な資料があればその都度配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ (文化としての科学)	01	前 期	2単位	鈴木善次
【講義概要・学習目標】 今日、私たちは科学文明の社会で生活している。この科学文明は世界共通のものという印象を与えているが、この文明の基盤となっている近代科学は17世紀に西ヨーロッパにおいて誕生したものであり、その背景にはキリスト教の思想があるといわれる。その意味で科学は文化であるといえる。本講義では上記の視点から近代科学の誕生をめぐっての当時の状況を紹介し、「科学と文化」を学生諸君に検討してもらう。その上で今日の科学文明についての評価をしてもらう。	【講義計画】 1. 科学的とは何か。 2. 近代科学誕生の背景 キリスト教思想との関係。 3. 近代科学とは。 4. 近代科学と文化 5. 日本の文化と近代科学			
【成績評価の方法】 講義中に求める感想と期末テスト(スリレポート)の結果を総合的に評価する。	【参考文献】 講義中に紹介する。			
【教科書】 とくになし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ (文化としての科学)	02	後 期	2単位	鈴木善次
【講義概要・学習目標】 今日、私たちは科学文明の社会で生活している。この科学文明は世界共通のものという印象を与えるほど地球上広く展開しているが、その基盤となっている近代科学は17世紀に西ヨーロッパという一地域で誕生したものであり、その背景にはキリスト教の思想があったといわれている。その意味で科学を一つの文化形態としてとらえることもできる。本講義では上記の視点から近代科学誕生の状況、その思想的背景、他文化への影響などを検討し、学生諸君に今日の科学文明の再評価を求める。	【講義計画】 1. 科学文明とは。 2. 近代科学の誕生とその背景 3. 近代科学と諸文化との関係。 4. 近代科学と日本の文化。			
【成績評価の方法】 講義中に求める感想と期末テスト(スリレポート)の結果を総合的に評価する。	【参考文献】 講義中に紹介する。			
【教科書】 とくになし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ（日本民話の原風景）	01	前 期	2 単位	三 浦 俊 介
	02	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 南島（奄美・沖縄）における民話を日本本土のそれと比較して、両者の共通点や相違点について考察する。大阪出身の折口信夫は『古代研究』の中で「万葉人が現に生きて、琉球諸島の上に、万葉生活を、大正の今日、我々の前に再現してくれて居る」と述べている。では、平成に生きる我々の前に、南島はどのような形で、民話の生成・変容のダイナミズムを見せてくれるのであろうか。	【講義計画】 1 口承と書承 2 口承文芸の分類 3 南島の言葉と文化 4 南島神話と呪詞 5 伝説と史譚 6 鳥獣草木譚 7 本格昔話 8 笑話・艶笑譚 9 世間話の妖怪譚 10 説話と民俗社会 11 説話と儀礼 12 南島の伝承者 13 南島説話と韓国 14 南島説話と中国 教科書に即して講義するが、補足的にプリントも配布する。			
【成績評価の方法】 ①毎回出席を取る。欠席の過剰は減点対象。 ②期末試験の成績を重視する。	【参考文献】 講義中に随時紹介する。			
【教科書】 福田晃・岩瀬博共編『民話の原風景』世界思想社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（フランス文学とその背景）	01	前 期	2 単位	中 所 聖 一
	02	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 わたしたちが一つの国（地域）の文化を理解しようとする際、現在、表層に現れている現象を解釈する他に、そこに残されてきた、いわゆる古典を知るという方法も有効であるに違いありません。この授業では、フランス文学の基盤であるケルト文化、ギリシア・ローマ文化、そしてキリスト教を意識しつつ、19世紀末までの主要作品を概観します。個々の作品解釈にとどまらず、それらを通して、その時々の社会および思想的背景をみなさんに汲み取ってもらいたいと思います。それゆえ、授業で取り挙げる作品は必ずしも純粋な文学作品とは限らず、時事的なもの、いくぶん哲学的なものも含まれますが、作品のタイプに応じて、文学作品分析のモデルを、あるいは、語られる思想の意味するところを提示してゆくことになります。それらをあくまでも大きく、流れとして把握することによって、フランス文化（フランス的思考）を理解してもらいたいと考えています。	【講義計画】 ①フランス文学の基盤 ②伝説から物語へ ③ルネサンス期におけるユマニスムと荒唐無稽 ④「理性」と「情念」 ⑤啓蒙思想と教育小説 ⑥ロマン主義と写実主義・自然主義			
【成績評価の方法】 必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します。	【参考文献】 渡辺一夫・鈴木力衛 著、『増補 フランス文学案内』、岩波文庫。他は、授業時に紹介する。			
【教科書】 なし。随時、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																												
世界の文化Ⅳ（芸術・言語・価値観の比較）	01	前 期	2 単位	テレンス オブライエン Terence J. O'Brien																												
	02	後 期	2 単位																													
【講義概要・学習目標】 This course is a series of lectures in English. However, I will try to make the course easy to understand so if you have a little confidence in your English, why don't you try to listen to these lectures? The aim of the course is to give students an insight into some differences between the countries of Japan, the UK and the USA. I will talk about their cultures, their societies, their art, and their social values. Students are expected to listen carefully and to take notes during the lectures. Students should also think carefully about the points raised in the lectures.	【講義計画】 <table> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>7</td> <td>Social history (i)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Japan - UK, a comparison</td> <td>8</td> <td>Social history (ii)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Churches</td> <td>9</td> <td>The start of pop music</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Houses</td> <td>10</td> <td>Art (i)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Bathrooms</td> <td>11</td> <td>Art (ii)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Test</td> <td>12</td> <td>Time</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13</td> <td>Test</td> </tr> </table>				1	Introduction	7	Social history (i)	2	Japan - UK, a comparison	8	Social history (ii)	3	Churches	9	The start of pop music	4	Houses	10	Art (i)	5	Bathrooms	11	Art (ii)	6	Test	12	Time			13	Test
1	Introduction	7	Social history (i)																													
2	Japan - UK, a comparison	8	Social history (ii)																													
3	Churches	9	The start of pop music																													
4	Houses	10	Art (i)																													
5	Bathrooms	11	Art (ii)																													
6	Test	12	Time																													
		13	Test																													
【成績評価の方法】 Students' grades will be calculated from (i) attendance and (ii) from two tests. In these tests you will write essays in English, but you may use your class notes and your dictionaries.	【参考文献】																															
【教科書】 I will give you some prints during each lesson.																																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（映画の歴史－映像表現論Ⅰ）	01	前 期	2 単位	水 口 薫
	02	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 人間は、言語、文字、絵画、写真のメディアを発明し、記録、表現してきた。そして、これらのメディアと違い、時間経過を記録、再現できる映画（映像）が誕生して一世紀になる。映画は、コミュニケーション（伝達）の手段として表現方法、映画言語を生みだし、芸術が生まれた。そこには、民族の歴史、文化、習慣が色濃く現われている。 本講義では、動く絵の原理、映画の発明、その歴史、映画言語を理解し、映画を見ることによって、人間を、また異文化を理解するためのメディア・リテラシー（読み書き能力）を身につけることをめざす。	【講義計画】 「映画の歴史Ⅰ」 1 動く映像とは？ 2 映画の発明 3 映画言語とは？ 4 映画の発達 5 メディア・リテラシーとは？ 6 映画のジャンル、劇映画と記録映画 7 日本映画と外国映画			
【成績評価の方法】 出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート形式の定期試験にて総合評価。小テストの欠席3回の者は不合格。	【参考文献】 『映画の教科書 どのように映画を読むか』 ジェイムズ・モナコ（著）岩本憲児、内山一樹、杉山昭夫他（編） （フィルムアート社） 『メディア・リテラシー マスメディアを読み解く』 カナダ・オンタリオ州教育省（編）FCT（市民のテレビの会）（訳） （リベルタ出版） その他、講義のときに提示する。			
【教科書】 適時、プリントを配布。受講者多数の場合は変更。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（映画に見るアメリカ文化）		後 期	2単位	石 塚 浩 司
【講義概要・学習目標】 現代のアメリカの諸問題を念頭において、講義計画に挙げるそれぞれのトピックを歴史的にとりあげ、総体としてアメリカ研究の導入という観点から解説・講義する。受講生は、アメリカの歴史と文化についての基本的な知識を修得するとともに、各自が、それぞれ自分の関心あるトピックを選んで授業中に紹介する基本文献を読まなければならない。映画はアメリカ文化を知るための補助的資料として、その一部を見るだけであって、映画鑑賞の授業ではない。	【講義計画】 「アメリカ史概要」「移民の国アメリカ」「ネイティブ・アメリカン」「アフリカン・アメリカン」「ゲイ・ピープルとエイズ」など。詳しくは最初の授業でプリントを配布する。			
【成績評価の方法】 試験期間中テスト。	【参考文献】 授業中に指示、紹介する。			
【教科書】 『映像文学に見るアメリカ』（紀伊国屋書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（キリスト教音楽の変遷Ⅰ）		前 期	2単位	堀 江 光 一
【講義概要・学習目標】 ミサ曲、クリスマス・カロルなど、キリスト教に音楽は欠かせません。この講義では、聖書の時代から今日までの、聖歌・賛美歌の歴史を辿ってゆきます。「ことば（words）」と「ふし（tune）」が結びついて生まれる、すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？	【講義計画】 時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。音源は録音物が主ですが、週によっては、チャペルのパイプオルガンも使います。この時間では毎回音楽を聴くので、授業中勝手にしゃべりたい人は来ないでください。			
【成績評価の方法】 学期末に、レポートまたは作品を提出してもらいます。出席は取りません。	【参考文献】 必要に応じて紹介します。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（キリスト教音楽の変遷Ⅱ）		後 期	2単位	堀 江 光 一
【講義概要・学習目標】 キリスト教音楽は、「西洋式」音楽の一方の親でもあります。 この講義では、ドレミやハ長調の成り立ち、バロックからロックに至る様式の変遷など、「西洋式」音楽が育てられた歴史を辿ります。すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？	【講義計画】 時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。 音源は録音物が主ですが、週によっては、チャペルのパイプオルガンも使います。 この時間では毎回音楽を聴くので、授業中勝手にしゃべりたい人は来ないでください。			
【成績評価の方法】 学期末に、レポートまたは作品を提出してもらいます。 出席は取りません。	【参考文献】 必要に応じて紹介します。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（イギリスの恋愛小説）		後 期	2単位	中 村 祥 子
【講義概要・学習目標】 イギリス文学には、今日 世界中で読み継がれている傑作がたくさんある。こうした世界的な名作の中には、たとえば『ロミオとジュリエット』『パミラ』『嵐が丘』など、恋愛を中心テーマとして扱ったものも数多く含まれている。この講義では、そのうちの一つ、エミリー・ブロンテ作の『嵐が丘』を取り上げて、優れた恋愛小説が私たちに与える感動の源を探ってみよう。	【講義計画】 『嵐が丘』を読み進み、主人公たちの恋愛が私たちに与える様々な問題点、たとえば二人は何故お互いにしかたなく、二人の恋愛が悲劇になるのは何故か、二人には他の選択の余地はなかったのかなどなど、を見ていく中で、普遍的な恋愛の要素と、当時の社会のせいと評されたかった悲恋の要素とを具体的に見ていく。			
【成績評価の方法】 定期試験の成績と、平常点の総合評価による。平常点には出席状況、小テストの成績なども加味する。	【参考文献】 授業中に指示する。			
【教科書】 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』上下（岩波文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（樋口一葉の小説を読むⅠ）		前 期	2 単位	佐 藤 慶 子
【講義概要・学習目標】 明治時代の女流作家で、24歳で没した樋口一葉の、「大つごもり」と「十三夜」を読む。 「大つごもり」は22歳、「十三夜」は23歳の時の作品である。 「たけくらべ」や「にごりえ」が、代表作として知られているが、彼女の残した22編の短編小説のどれもが、じっくり読むに値するものである。 限られた人生を、死を予感しつつ、真摯に生き抜いた彼女が、描いた小説の主人公達に託したものは、一体、何だったのか。現代にも通じる人間の生き方を、共に探してみたい。	【講義計画】 担当範囲を割り当てて、発表させ、質疑応答と討論で授業を進める。 発表者以外にも意見を求めるので、積極的に参加してほしい。			
【成績評価の方法】 毎回、講義開始時、10分間を当てて、前回の理解度を確認し、その日につなげるためのレポートを書かせ、平常点とするので、無遅刻、無欠席に努めてほしい。出席を最重視する。期末試験に、授業中の発表、態度を加算し、総合評価する。	【参考文献】 『樋口一葉全集、第1・2巻』、筑摩書房。			
【教科書】 樋口一葉『たけくらべ・にごりえ』、角川文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（樋口一葉の小説を読むⅡ）		後 期	2 単位	佐 藤 慶 子
【講義概要・学習目標】 明治時代の女流作家で、24歳で没した樋口一葉の、「わかれ道」と「われから」を読む。 「わかれ道」も「われから」も、彼女の亡くなる24歳の時の作品である。 「たけくらべ」や「にごりえ」が、代表作として知られているが、彼女の残した22編の短編小説のどれもが、じっくり読むに値するものである。 限られた人生を、死を予感しつつ、真摯に生き抜いた彼女が、描いた小説の主人公達に託したものは、一体、何だったのか。現代にも通じる人間の生き方を、共に探してみたい。	【講義計画】 担当範囲を割り当てて、発表させ、質疑応答と討論で授業を進める。 発表者以外にも意見を求めるので、積極的に参加してほしい。			
【成績評価の方法】 毎回、講義開始時、10分間を当てて、前回の理解度を確認し、その日につなげるためのレポートを書かせ、平常点とするので、無遅刻、無欠席に努めてほしい。出席を最重視する。期末試験に、授業中の発表、態度を加算し、総合評価する。	【参考文献】 『樋口一葉全集、第2巻』、筑摩書房。			
【教科書】 樋口一葉『たけくらべ・にごりえ』、角川文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (日本文化論の功罪)	01	前 期	2 単位	深 澤 徹
	02	後 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕 ナショナリズムには様々な側面があるが、そのもともとソフトな形態に「文化としての日本主義」がある。文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくことがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。扱う対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説だが、適宜時代を遡らせて、「国民国家」の創生へ向けての日本の足取りをたどることになるだろう。	〔講義計画〕 授業の最初の時期に、詳細なシラバスを配布する。			
〔成績評価の方法〕 試験の成績と出席状況を合わせて評価する。	〔参考文献〕 南博著『日本人論－明治から今日まで－』（岩波 1994）			
〔教科書〕 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (ヨーロッパ史の諸問題 I)		前 期	2 単位	山 田 義 顕
〔講義概要・学習目標〕 中世および近代のヨーロッパの歴史と社会について、いくつかのテーマを設定して講義する。	〔講義計画〕 主なテーマ ①ヨーロッパとは何か ②ヨーロッパの歴史地理 ③ヨーロッパの時代区分 ④中世ヨーロッパとペスト ⑤ヨーロッパ史のなかの魔女 ⑥大航海の時代 ⑦奴隷貿易 ⑧近代の光と影			
〔成績評価の方法〕 出席・学期末試験などにより総合的に評価する。	〔参考文献〕 必要に応じて、講義中に紹介する。			
〔教科書〕 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ（ヨーロッパ史の諸問題Ⅱ）		後 期	2単位	山 田 義 顕
〔講義概要・学習目標〕 <p>現代ヨーロッパの歴史と社会について、いくつかのテーマを設定して講義する。</p>	〔講義計画〕 <p>主なテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①現代ヨーロッパの幕開け ②帝国主義時代のヨーロッパ ③第一次世界大戦とヨーロッパ ④戦後ヨーロッパの社会 ⑤ファシズムの登場 ⑥ヒトラーとドイツ ⑦ヒトラーの対外政策 ⑧第二次世界大戦の勃発 			
〔成績評価の方法〕 <p>出席・学期末試験などにより総合的に評価する。</p>	〔参考文献〕 <p>必要に応じて、講義中に紹介する。</p>			
〔教科書〕 <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ（ドイツ・歴史と都市と文化）	01	前 期	2単位	種 田 明
	02	後 期	2単位	
〔講義概要・学習目標〕 <p>「ドイツは森の国である。その森に守られて、各地にたくさんの都市がある。ドイツの都市は、それがどんなに小さくても個性があり、独特の顔がある。それでいてドイツの都市は、構造上も精神的にも、普遍的な共通性を有している。そしてそこに住む人びとは、独自のドイツの生活文化を作りあげている。」（小塩節『ドイツの都市と生活文化』より） 本講義は、ドイツ・ヨーロッパを中心に歴史と社会を漫歩してみようとするものである。いわゆる「常識」的理解から一歩踏み出し、ドイツ・ヨーロッパから日本と日本人（自分自身）を考える切っ掛けを掴んでほしい。</p>	〔講義計画〕 <p>テキストに沿って行う；</p> <ul style="list-style-type: none"> I ドイツとドイツ人 II 日々の生活 III 都市・自然・生活文化 IV 厚みのある生活文化を <p>また、適宜VTR（英語・独語）を使い、現実のドイツ・ヨーロッパの現在を見ていく予定である。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>レポート（A4版ワープロ打ち、40字×30行×2枚）</p>	〔参考文献〕 <p>池内紀（監修）『読んで旅する世界の歴史と文化 ドイツ』新潮社 1992年 その他、講義時に指示する。</p>			
〔教科書〕 <p>小塩節『ドイツの都市と生活文化』講談社（学術文庫）1993年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ（李氏朝鮮時代の社会と文化）	01	前期	2単位	徳成 外志子
	02	後期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>李氏朝鮮時代の社会、経済、思想、文化相を集中的に取り上げていきたい。現代の朝鮮半島の風俗、習慣、思想等は、直接的にはこの時代に形成されたと考えられるからである。韓国の家族・親族制度や人々の関係、思考・行動様式、対外観等や、北朝鮮の「儒教社会主義」と言われる現状など、歴史的に見てこそ理解できることが多い。</p> <p>李氏朝鮮時代の社会はしばしば「両班儒教社会」と特徴づけ語られる。「両班」と「儒教」を理解することが朝鮮時代を、ひいては近現代の朝鮮社会を理解する1つのキーポイントと言えよう。本講義では、両班に代表される身分制と、儒教をめぐる諸思想、価値観・倫理観、対外観に焦点を当て考察していきたい。李氏朝鮮時代は約500年間も続いたが、なぜこのように長期にわたり一つの王朝が存続したのかも興味深い問題である。</p> <p>朝鮮半島の国々には日本に最も近い隣国、隣人でありながら、歴史的にも非常に異なった過程をたどり、似て非なるところが多い。近年あまりいいニュースがないが、偏見を持たず、その逆に過度に美化もせず、まず日本に一番近い隣国に関心を持ちその実像を理解しようとしてほしい。</p> <p>ビデオなどの映像資料も取り入れ、また近年の韓国社会の変化や日本との関係などにも留意して講義をしていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 朝鮮の地理、朝鮮史の時代区分 高麗から李氏朝鮮への変化—朝鮮王朝の建国 李氏朝鮮時代の概観—前期、中期、後期、末期から大韓帝國へ 両班儒教社会の形成 <ul style="list-style-type: none"> 両班とは何か 両班の政治支配、在地社会支配体制 朝鮮の身分制—両班、中人、常民、賤民 現代に生きる両班・儒教的伝統 朝鮮の思想 <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮朱子学 朝鮮後期の実学 李氏朝鮮時代の対外関係 <ul style="list-style-type: none"> 東アジアの動乱（元明、明清交替）と朝鮮 事大（対中国）・交隣（対女真、日本等）政策 近現代の対外関係・対外認識・自国認識への影響 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末レポート、及び平常の出席と課題への取り組みを総合的に評価する。毎回出席して授業を聞いていないと、レポートがプリントはずれになる恐れがある。今までの経験から、きちんと出席している学生のレポートに、やはり良いものが多い。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸本美緒、宮嶋博史『世界の歴史12 明清と李朝の時代』中央公論社、1998 宮嶋博史『両班（ヤンバン）』中公新書、1995 朴永圭著、尹淑姫・神田聡訳『朝鮮王朝実録』新潮社、1997 姜萬吉著、小川晴久訳『韓国近代史』高麗書林、1986 伊藤聖人『暮らしがわかるアジア読本、韓国』河出書房新社、1996 朝鮮史研究会編『新版朝鮮の歴史』三省堂、1995 武田幸男・宮嶋博史・馬淵貞利著『地域からの世界史』朝日新聞社、1993 孫承詒著、山里澄江他訳『近世の朝鮮と日本—交隣関係の虚と実—』明石書店、1998 <p>以上は主に近年の単行本中の極一部に過ぎない。その他授業で適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ (近現代大阪の歴史)	01	前期	2単位	佐賀 朝
	02	後期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>明治維新～現代までの大阪の歴史を概述する。</p> <p>その際、近代における巨大都市としての大阪の形成・展開とそれが抱えた矛盾という点を軸にすえて論じる。また大阪の社会を、そこに日々働き、暮らす人々の労働・生活の場として捉え、民衆の視点からその歴史的展開を見ていく。</p> <p>以上の作業を通じて、われわれが日々暮らし学んでいる場である現代大阪の歴史的成り立ちとその問題点について考えるとともに、歴史学の基礎的な方法を実践的に学ぶことをめざす。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下の内容に沿って進める。</p> <p>明治前期の大阪 近世城下町の解体／近代都市の形成／資本主義の形成／移行期の都市社会</p> <p>明治後期の大阪 大阪市の成立／近代産業の発展／近代都市の建設／都市社会問題の発生</p> <p>大正期の大阪 世界大戦と大阪経済／都市問題の激化／都市政策の形成／社会運動の発展</p> <p>昭和戦前・戦中期の大阪 「大大阪」の誕生／モダン都市大阪／都市問題の深刻化／戦争と大阪</p> <p>戦後復興期の大阪 占領下の大阪／都市自治の新動向／復興期の市民生活</p> <p>高度成長期の大阪 大阪と高度経済成長／巨大開発と公害問題／経済成長と都市社会</p> <p>現代の大阪 万国博覧会と大阪／革新自治体の時代／新しい市民運動／現代の大阪</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> 『新修大阪市史』第5巻～第9巻（1991～95年） 芝村篤樹『関—都市思想のパイオニア—』（松籟社、1989年） 小山仁示・芝村篤樹『大阪府の百年』（山川出版社、1991年） 原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） <p>その他、授業のなかで随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特定のものはない。必要な資料は授業のなかで随時、配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（海域アジアの歴史を読む）		前 期	2 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 この講義は「海域アジア社会」というものを考えながら歴史資料も読もうとする、ちょっと欲張った試みである。具体的には海のシルクロードに関わる歴史資料を読みながら、その様々な背景を考える。「陸域」中心史観によるシルクロード史でなく、「海域社会」という観点からアジアの地域間交易の歴史を見直す試みである。「陸域」中心の常識的な観念から自由になることによって、重要な事柄がいくつか見えてくるはずである。 海のシルクロードの歴史を東南アジアを中心に見ていくことになる。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が国際交易つまり海のシルクロードと結びついたからである。史料は東南アジアを中心とする海のシルクロードに関わるもので、できるだけ日本語訳されたものを配付し、解説を加える。	【講義計画】 1. 海域アジア世界と「島の熱帯」 海域アジア世界/東南アジア＝「島の熱帯」/モンスーン/海圏 付 海域アジア世界のなかの日本 2. 海のシルクロード成立以前 大秦（ローマ）の幻人 3. 海のシルクロードの成立 法顕の航海 4. マラッカ海峡の交易帝国 シュリーヴィジャヤ＝室利仏逝の時代 5. 広州の繁栄、アラブ・ペルシア商船の活躍			
【成績評価の方法】 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。	【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃図R292.3〕 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.9〕 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃図A209〕 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃図A209〕 その他教室で時々指示する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（古代ジャワの歴史と社会）		前 期	2 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 日本とだいたい同じ約二千年の歴史のある東南アジアのなかでもジャワではとくに高度な古代文化が発達した。世界最大の仏教遺跡として有名なボロブドゥル遺跡や東南アジアでもっとも古い書物である古代ジャワ語の『ラマーヤナ』はその象徴である。この講義ではこうしたジャワの古代文化を紹介しながら、その歴史と社会について考えていく。 ジャワ史の背景として生態学的な特徴はたいへん重要である。そのうえに展開した古代の歴史では統一国家の形成、政治と文化の中核の移動、アジア交易ネットワークのなかのジャワの中心性、王権論の展開、＜唯一神＞創造の試みのかずかずなどが重要なテーマとして浮かび上がってくる。余裕があれば権力の正統性と知識人の役割についても取り上げたい。	【講義計画】 1. 火山島の奇跡 — 居住最適地としてのジャワ 2. 王権の発生 3. 統一権力の形成 4. 王権思想 — ボロブドゥルの時代 5. 中部ジャワ時代の終焉 6. 「太平の閩婆」 — 交易ネットワークの中心 7. 征服王の時代 — 島嶼世界の盟主 8. 支配イデオロギー＝＜普遍原理＞を求めて			
【成績評価の方法】 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。	【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃図R292.3〕 池端雪浦編『変わる東南アジア史像』山川出版社 1994〔桃図223〕 デュマルセ、ジャック著 藤木良明訳『ボロブドゥル』学芸出版社 1996〔桃図522.3〕 その他教室で時々指示する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（騎馬遊牧民の文化）		前期	2単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標] ユーラシア大陸東部地域の騎馬遊牧民の文化を探る。アジア史の展開に重大な役割を果たしたこの人々の物質文化・精神文化を考察しようとするものである。</p> <p>私たちは、農耕民世界に生い育ったので、まったく様相を異にする騎馬遊牧民の生活の諸相については、想像もつかないことが多々ある。</p> <p>そうしたことも、物質文化・精神文化の双方から見てゆきたい。価値観のちがいが、意表をつかれる事実など、不思議なことを不思議に感じる率直な目で聞きとってもらえれば幸いである。</p> <p>講義は、毎回独立したテーマを設け、1回ごとに完了するやりかたで進める（「読み切り」方式でもいうべきか）。理解をたすけるために随時担当者作成のプリントを配布する。このように授業が進められるので、最初から聞いていないと、重要なテーマ設定・まえおきなどがぬけてしまい、内容が理解しえなくなる。だから原則として遅刻は認めない。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の構想 2. 野獣と家畜－自然と人為－ 3. 遊牧の諸相 4. 移動と定住 5. 家畜とヒト 6. 遊牧生活の展開－生活暦という観点から－ 7. なにに価値を見いだすか－中国世界への視線－ 8. 騎馬遊牧民の広い視野－「開明性」と「商業性」－ 9. 北アジアのシャマニズム 10. 外来諸宗教の受容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭伝承の意義 2. 「遊牧」が問いかけること 		
<p>[成績評価の方法] 毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認して、その積み重ねを評価の対象とする。原則として、この小テストだけによって成績評価を行う。</p>		<p>[参考文献] 梅棹忠夫『狩猟と遊牧の世界』講談社学術文庫 講談社。 松田壽男『砂漠の文化－中央アジアと東西交渉－』同時代ライブラリー 岩波書店。</p>		
<p>[教科書] 特に指定しないが、「参考文献」欄にあげた文献類を一読してほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（騎馬遊牧民の世界）		後期	2単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標] アジアの歴史を考える上で、けっして見逃すことのない大きな影響を与えた人々、それが騎馬遊牧民である。かれらは、騎馬という新技術をも身につけ、それを存分に活用して、ユニークな社会を創造し、既存の文明社会にさまざまな刺激を与えたのである。</p> <p>この人々の歴史をふりかえるのが本講義の目的である。地域としては、騎馬遊牧民の国家として空前の勢力を確立したモンゴルを生み出したユーラシア大陸東部を対象とする。その地域を中心とする、騎馬遊牧技術の成立、国家の形成、独自の社会組織、東アジア世界にあって古くから一大文明圏を形成してきた中国とのかかわりなどについて、多角的に考察する。</p> <p>講義は、毎回ことなるテーマを設け、1回ごとに完了するやりかたをとる（「読み切り」方式でもいうべきか）。理解をたすけるために随時担当者作成のプリントを配布する。このように授業が進められるので、最初から聞いていないと、重要なテーマ設定・まえおきなどがぬけてしまい、内容が理解しえなくなる。だから原則として遅刻は認めない。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の構想 2. ヒトと家畜－遊牧の前提として－ 3. 牧畜経済の諸相 4. 騎馬技術の成立と伝播 5. 匈奴の社会 6. 匈奴と中国世界の葛藤 7. 中国世界に騎馬遊牧民がはいりこむ 8. いわゆる「征服王朝」について 9. 内陸アジア世界における正統的王権についての思想 10. 多民族複合国家の実相－モンゴルの場合－ <ol style="list-style-type: none"> 1. 多民族複合国家の実相－モンゴル以後－ 2. 騎馬遊牧民の歴史的意義－本講義をふりかえって－ 		
<p>[成績評価の方法] 毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認して、その積み重ねを評価の対象とする。原則として、この小テストだけによって成績評価を行う。</p>		<p>[参考文献] 間野英二等『内陸アジア』地域からの世界史6 朝日新聞社。 山田信夫『草原とオアシス』講談社。 間野英二『中央アジアの歴史』新書東洋史 講談社現代新書 講談社。</p>		
<p>[教科書] 特に指定しないが、「参考文献」欄にあげた文献類を一読してほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (スウェーデンの社会と経済 Society and Economy in Sweden)	01	前 期	2単位	伊 藤 正 純
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] この講義の狙いは、民主的で平等な福祉国家として有名なスウェーデン社会の特徴をできるだけたくさん紹介し、皆さんが現在の日本の社会を検討するときの比較の鏡を提供することにある。私は、政治、福祉、女性、労資関係、教育、環境問題、国際化というテーマにそって、スウェーデン社会の特徴を紹介するつもりである(ビデオも使用)。 スウェーデン社会は、デモクラシーの実験国家だと呼ばれている。民主主義は、大雑把に言えば、政治的な民主主義(選挙制度、政治機構)、社会的な民主主義(社会福祉、教育制度)、経済的な民主主義(女性の就労、労働者の経営参加)という発展段階を経て成熟している。もちろん、これら3領域の民主主義は相互に影響しながら発展していくが、スウェーデンの福祉社会の成熟をみてみるとその感を強くする。上記のテーマ設定は、このような問題意識に基づく。ただ現在の経済の国際化の進展なかでは、スウェーデンの福祉国家も苦悩の選択を迫られている。この点にもできたら触れたい。	[講義計画] 1. 政治的な民主主義(選挙制度、政治機構、地方政治) 2. 社会的な民主主義—その1(障害者福祉、高齢者福祉) 3. 経済的な民主主義—その1(女性の就労、男女平等) 4. 経済的な民主主義—その2(平和的な労資関係、労働者の経営参加) 5. 社会的な民主主義—その2(職業教育を重視した教育制度) 6. 苦悩する福祉国家—国際化の進展のなかで			
[成績評価の方法] 平常点(授業中にときどき書いてもらう感想文:20点)と学期末の筆記試験(80点)による。	[参考文献] 1. 平田清明、伊藤正純他『現代市民社会と企業国家』御茶の水書房 2. 黒沢惟昭・佐久間孝正編著『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社 3. 岡沢憲英・奥島孝康編『スウェーデンの政治』早稲田大学出版部 4. 岡沢憲英・奥島孝康編『スウェーデンの経済』早稲田大学出版部 5. 岡沢憲英・奥島孝康編『スウェーデンの社会』早稲田大学出版部 6. 岡沢憲英『スウェーデンの挑戦』岩波新書			
[教科書] 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (議会制の政治思想史的考察)		前 期	2単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 「議会制か「独裁」か 二十世紀は、民主主義が政治的正統性を獲得した時代である。如何なる政治体制も自らの体制が民主主義的であると称することなしには存立し得なくなったのが、今世紀という時代なのである。この民主主義は、通常、議会制を以て実現されると信じられてきた。 だが、議会制は、必ずしも順風満帆な道のりだけを歩んだわけではない。とりわけ、ドイツでは、議会制を利用して議会制を廃棄するということが実際に起こった。ナチス・ヒトラー政権の成立である。ナチスは、議会制を批判しつつ、議会を通して政権の座につき、そして議会を有名無実化した。つまり、議会制批判は、ある意味で「成功」をおさめたのである。 この講義では、現代議会制の抱える様々な問題点をドイツ・ヴァイマル時代の議会制論議を通して考える。	[講義計画] ドイツ・ヴァイマル時代における議会制論議 1. ドイツ・ヴァイマル時代の政治的危機とは？ 2. ヴァイマル時代の政党批判・議会制批判の特質 3. カール・シュミットの議会制批判 ① 議会制批判の論拠 ～「自由主義」と「民主主義」との区別 ② 議会制に代わる「 <u>民主主義的独裁</u> 」 ③ ヴァイマル憲法における「大統領の独裁」と「憲法の番人」 4. ヘルマン・ヘラーの議会制擁護論 ～「強力な政府」と「市民」、政治的危機における知識人 5. 「議会制」か「独裁」か			
[成績評価の方法] この講義では、出欠は一切とらない。従って、出席カードだけを目当てに教室に来て時間も労力の無駄に終わるのである。出席カードの配布だけを待ち続け、その間、ひたすら友人同士での雑談に耽ろうと計画している者には全く不向きな講義である。授業中の私語は絶対に許さず、ただちに退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。 成績評価は、定期試験のみで行う。 教科書は使用しない。	[参考文献] 参考文献については、授業中に随時紹介して行く			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (国会の機能と現状)		後 期	2 単位	山 崎 充 彦
【講義概要・学習目標】 現代民主主義にとって、議会制はいわば不可欠な制度である。最近脚光を浴びている住民投票は、あくまで議会を補完する制度と位置づけられるに過ぎない。しかし、我が国の国会の現状は到底、国民にとって満足すべき状況ではない。審議の形式化、閣取引の横行など、国会の現状が「国権の最高機関」の名にふさわしいとは言えない一面があることも事実であろう。 この講義では、戦後日本の政治史を振り返り、現実の政治状況を踏まえつつ、国会の役割と現状、議会制の果たす機能、議会と官僚制の関係などの点について、考える。		【講義計画】 Ⅰ、戦後日本の議会史 ～五五年体制成立から今日まで Ⅱ、国会審議の問題点 ～国会審議は空洞化しているか Ⅲ、議会と官僚、その人的関係の実態 1、官僚から国会議員へ ～参議院を例に - 農林水産省・建設省による「議席世襲化」の実態 2、官僚出身議員の構造変化 ～五五年体制下から平成8年総選挙まで 3、官僚出身国会議員の功罪 ～「党高政低」の意義と問題点、族議員の現状と弊害 Ⅳ、比例代表制の功罪 ～衆議院比例代表区をめぐる Ⅴ、国会活性化の試みとその問題点 ～議員立法・党議拘束の問題点		
【成績評価の方法】 この講義では、出欠は一切とらない。従って、出席カードだけを目当てに教室に来て時間も労力の無駄に終わるのである。出席カードの配布だけを待ち続け、その間、ひたすら友人同士での雑談に耽ろうと計画している者には全く不向きな講義である。授業中の私語は絶対に許さず、ただちに退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。 成績評価は、定期試験のみで行う。 教科書は使用しない。		【参考文献】 参考文献については、授業中に随時紹介して行く		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅳ (沖縄の歴史と社会)	0 1	前 期	2 単位	片 倉 穰
	0 2	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 沖縄とアイヌは日本人を考える二つの顔である。本年度は、日本にとって沖縄はなにか、沖縄にとって日本はなにか、を考えるために、沖縄の歴史と社会を具体的に考察する。 古代から現代までの沖縄の歴史と社会の展開過程を概観する形で講義を行なうが、つねに、日本・朝鮮・中国・その他諸地域とのかかわりのなかにおける沖縄の人びとの栄光と苦悩を検討する。 最近論議されている史料や研究成果を紹介しながら、沖縄からなにを学ぶか、という姿勢で講義を進める。		【講義計画】 (1) はじめに — いま、なぜ沖縄なのか (2) 沖縄の海洋活動と中国・日本 (3) 舜天王と源為朝 — 沖縄の人びとの帰属意識をめぐる (4) 薩摩藩の「琉球」支配と沖縄の社会 (5) 近代日本政府の沖縄支配 (6) 近代の沖縄と日本人の意識 — 広津和郎「さまよえる琉球人」と沖縄青年同盟 (7) 戦場となった沖縄と日本人 (8) 沖縄と天皇・「君が代」 (9) おわりに — 日本人にとっての沖縄問題		
【成績評価の方法】 期末試験等により評価する。		【参考文献】 新里恵二『沖縄史を考える』勁草書房、1970年 新崎盛輝『日本になった沖縄』〈有斐閣新書〉有斐閣、1987年 安良城盛昭『天皇・天皇制・百姓・沖縄』吉川弘文館、1989年		
【教科書】 とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅳ (変わる社会・孤立化する個人)		前 期	2 単位	土 屋 正 春
[講義概要・学習目標] 「我々はどこから来たのか、そしてどこに行くのか」という言葉はタヒチに没した画家ゴーギャンの言葉として皆さんもご存知でしょう。この言葉は、現代文明に対する根本的な問いかけでもあるのですが、実はもう一つの言葉が、この二つの言葉の間にはあるのです。 環境問題が深刻化する一方で多様な文化の担い手である「ひと」は次第に生命活動の「DNA総合体」として認識されることが多くなりつつあります。安楽死や尊厳死をめぐる問題はそうした場面が別の現れ方をしていると言えるでしょう。 このクラスでは環境と生命とをめぐる現代的な考え方についての概観を得ることを目標とします。ところで、間に入る言葉とは何でしょう。	[講義計画] 1. 何が問題となっているのか アザラシはなぜ大量死したのか 生きる価値がないとなぜ人は考えるのか 2. 問題はどのように受け止められているのか COP3の議論はどのように組み立てられたのか 尊厳死と安楽死はどのように選択されているのか 3. 現代社会での個人のあり方をめぐって 環境最優先という考え方について 生命最優先という考え方について			
[成績評価の方法] 講義を通じてお知らせします		[参考文献] 講義を通じてお知らせします		
[教科書] 使用しません				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ(マルコ福音書を読む)		前 期	2 単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] 『新約聖書』には27巻のさまざまな文書が含まれており、それらは人類全体の大きい知的遺産であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教など人間の根本問題に対して新鮮な光を投げかけている。その『新約聖書』の中に含まれているマルコ福音書を読むことが今年度の講義の目標である。「福音書」は一つの「文学」であり、その著者はいわば「作家」である。そこにはきわめて独自の思想と主張とが存在している。それを明らかにするためには、200年にわたる福音書の学問的な研究成果、特に最近の「編集史」という研究方法を土台としなければならない。福音書やイエスの生きざまに関心をいだく真面目な学生諸君の主体的な受講を期待している。なお、指定した教科書は必ず毎時間持参すること。	[講義計画] マルコ福音書をテーマ別に読解する。 1. イエスに従う 2. 弟子批判 3. 民衆 4. ユダヤ教批判 5. 人間主義 6. 神の国 7. 福音 8. 終末 9. 受難 10. 復活 など			
[成績評価の方法] 試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。		[参考文献] 滝澤武人『福音書作家マルコの思想』（新教出版社） " 『人間イエス』（講談社現代新書） 田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）		
[教科書] 新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ (先住民族とキリスト教Ⅰ)		前 期	2 単位	小 柳 伸 顕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>大航海時代のキリスト教は、新天地での宣教をめぐり海外へと進出しました。その典型がコロンブスをはじめたアメリカ大陸への進出です。キリスト教がそこで出会ったのは、先住民族インディオでした。インディオに対してキリスト教は何かをしたのか。バルトロメー・ラス・カサス (ドミニコ会司祭) の軌跡をたどる中で考えたい。キリスト教や歴史に対する新しい発見を各自がすることと望みます。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1492年のスペイン 2. コロンブスと新大陸 3. 植民者ラス・カサス 4. ラス・カサスの回心 5. バリャドリード論争 6. インディオとキリスト教 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小レポートと期末試験。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石原保徳『インディアスの発見』1980. 田畑書店 ・L. ハンケ『アリステレスとアメリカ・インディアン』1974. 岩波書店 ・ラス・カサス『インディアスの破壊にわたる簡潔な報告』岩波文庫 1976. 			
<p>[教科書]</p> <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ (先住民族とキリスト教Ⅱ)		後 期	2 単位	小 柳 伸 顕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>明治維新とともにプロテスタントのキリスト教が日本に伝来します。イギリスからは聖公会の宣教師たちがやって来ます。その宣教師のひとりが、ジョン・バプティストです。かれは、日本の先住民族アイヌにキリスト教を伝えます。ジョン・バプティストは、アイヌ民族をどう見たのでしょうか。アイヌ民族と宣教師バプティストの関係から再度先住民アイヌにとってキリスト教とは何かあったかを考えてみたいと思います。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アイヌ民族の歴史と現在 2. 明治政府とアイヌ民族 3. 松浦武四郎とアイヌ民族 4. ジョン・バプティストとアイヌ民族 5. バプティストとアイヌ民族 6. アイヌ民族とキリスト教 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小レポートと期末試験。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷川健一編『近代民族の記録・アイヌ』1972. 新人物往来社 ・山川力『アイヌ民族文化史への試論』1980. 未来社 ・ジョン・バプティスト『ジョン・バプティストの手紙』1965. 仁多見叢談編 山本書店 ・山田孝子『アイヌの世界観』1994. 講談社 			
<p>[教科書]</p> <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅱ（心を支え合う共同体を創る）	01	前 期	2 単位	伊 藤 高 章
	02	後 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] <p>人と人との関係には、様々な力学が働いている。私たちは、それらについて意識的・自覚的である場合もあるが、無意識的・無自覚な場合もある。本講義では、行動科学・社会心理などの知見の助けを借りながら、人間関係に働く諸力についての気づきを深めることを目指す。</p> <p>また、それらをよりよく理解するには体験学習が効果的であるので、受講者が自ら人間関係のダイナミズムを味わう設定を行う。受け身の座学の時間ではなく、実際に人間関係を営み、そして共同体を築く経験をする。</p>	[講義計画]			
[成績評価の方法] <p>様々な対人関係を「試みる」ことを学習の手段とするこのクラスでは、その「試み」である他者への具体的な働きかけに基づいて個々の受講生を評価することは行わない。全授業に「参加」（出席だけで活動しないのは「参加」ではない）の受講生にはAを、1回でも正当な理由なく欠席した受講生にはDをもって成績評価とする。</p>	[参考文献] <p>竹内敏晴 『「からだ」と「ことば」のレッスン』 （講談社現代新書 1027）</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ（仏教教典を読む）	01	前期	2 単位	武 田 耕 道
	02	後期	2 単位	
[講義概要・学習目標] <p>西暦400年前後、西域のコータン地方に、一群の大乗仏教の信者たちが教団をつくっていた。彼らは、熱心に釈尊を慕い、釈尊の悟りをどうにかして自分のものとしようと努力していた。この「悟りの追体験派」と呼ぶべき人々が大宇宙を舞台に悟りの世界とそこに到達すべき道を明らかにするという構想のもとに、複数の経典を収集・選択し、さらに新しく何章を追加して、全体を雄大な宗教歌劇の台本のような形に体系づけて、一経典の形に歌い上げた。これが『華嚴経』と呼ばれる大乗経典であると考えられる。</p> <p>この経典には三種類の漢訳があり、日本へも伝来した。南都六宗の一つとして華嚴宗が成立し華嚴経に基づいて、東大寺大仏様が建立された。鎌倉時代の凝然と高弁はその流れを汲む高僧たちである。</p> <p>釈尊の思想と仏教の発展・変容のプロセスを読み解き、人間存在の現実の姿と理想の形を探求したい。</p>	[講義計画] 1. 釈尊の生涯 2. 大乗経典 3. 翻訳の諸相 4. 華嚴経 5. 南都六宗 6. 華嚴宗 7. 凝然の思想 8. 高弁の宗教			
[成績評価の方法] 期末試験と出席状況	[参考文献] 鎌田茂雄（著）『華嚴の思想』（講談社） 末木文美士（著）『日本仏教史』（新潮社）			
[教科書] 特に指定せず				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (安藤昌益の思想)	01	前 期	2単位	三 宅 正 彦
	02	後 期	2単位	
【講義概要・学習目標】 安藤昌益(1703~62)は、日本で最初に封建領主制を否定した人物である。そのことが拡大され、共産主義者、無神論者、君主制否定論者などと意義づけられてきたが、じつは私有財産制を支持し、自然の神道を尊崇し、天皇制を重んじていた。また、武士の農民収奪は攻撃しても、女性差別・民族差別・部落差別を容認している。近年、中国の文化大革命のイデオロギー伝宣のために昌益を利用しようとする運動が行われて、昌益像はますます混雑している。 講義担当者が30年来行ってきた調査・研究をもとづいて、昌益の人と思想の真実を明らかにしたい。	【講義計画】 (1) 安藤昌益掘り起こしの経過 (2) 昌益のイデオロギー的利用 (3) 地域文化の伝統 (4) 昌益の思想形成過程 (5) 昌益の思想的特性			
【成績評価の方法】 期末試験(講義全体を理解しなければ単位は取得できない。欠席しないこと、私語しないこと)	【参考文献】 ・三宅正彦著『安藤昌益と地域文化の伝統』(雄山閣, 1996年) ・安藤昌益全集刊行会監修『安藤昌益全集』第1巻・第10巻(枝倉書房, 1981年, 91年)			
【教科書】 資料配布 ・資料は配布時の出席しているものに1回限り交付する。 ・資料は毎時必ず持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (西洋近代社会思想史)	01	前 期	2単位	坂 昌 樹
	02	後 期	2単位	
【講義概要・学習目標】 社会的存在である人は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状况に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会をも決定的に規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。学習の重点は、西洋近代の市民的個人主義がどのようにして構築され、そしてそれへの批判がどのような立場から出てきたかにあります。	【講義計画】 1. 導入：社会思想とはなにか、中世のキリスト教的世界観 2. 近代的主体の析出：マキアヴェッリ、ルター、デカルト 3. 市民的個人主義の社会構想：ホブズ、ロック、スミス、ルソー、カント 4. 市民的個人主義への批判：ヘーゲル、マルクス、女性解放思想			
【成績評価の方法】 学期末試験を中心にして総合的に評価する。	【参考文献】 必要があれば、講義中に指示します。			
【教科書】 指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (死と再生の儀礼)		前 期	2 単位	井 本 英 一
【講義概要・学習目標】 一見 清浄そのもので 不浄の影もない祭りを、分析すると 不浄から浄に移る過程であることが分かる。聖なるものとは何であるのか。この過程が 聖なるもので、それは コインの両面のように 背中合わせに一体になっているものである。日本文化を中心に比較文化学の手法を用いて解説する。	【講義計画】 1. 「上社と下社のこと」「二つの齋壇と二つの神殿」「大嘗祭と二つの即位式」では、山宮と里宮、内宮と外宮のような死と再生を象徴する二社制について論じる。 2. 「始祖と動物」「英皮の祭品」「人面獣身の背景」では、人間は死後動物になり輪廻転生(りんねてんしやう)するという思想を展覧し、文化史に現れた動物表象の意味をさぐる。			
【成績評価の方法】 期末試験の得点により評価する。	【参考文献】			
【教科書】 井本英一「聖なる伝承をめぐって」法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (異界との交流)		後 期	2 単位	井 本 英 一
【講義概要・学習目標】 一見 清浄そのもので 不浄の影もない祭りを、分析すると 不浄から浄に移る過程であることが分かる。聖なるものとは何であるのか。この過程が 聖なるもので、それは コインの両面のように 背中合わせに一体になっているものである。日本文化を中心に比較文化学の手法を用いて解説する。	【講義計画】 1. 「しるしの意味するもの」「三角表象の前世」では、象徴図像学の見地から、文様や図形や図像が伝達する聖なるものについて論じる。さらにシンボルの働きについて、記号の働きとどうちがうかを見る。 2. 「不思議の鏡」「隣国競技の他」では、古代人があらゆる手段を用いてあの世との交流を待とうとしたことを見る。四年に一度のオリンピック競技が 屋敷競技であったことを見出し、人々が競技を通じて死者を活性化し、自らも死者から恩恵を得ようとしたことを見る。これらの根底には、常に聖なる観念があった。			
【成績評価の方法】 期末試験の得点により評価する。	【参考文献】			
【教科書】 井本英一「聖なる伝承をめぐって」法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ（探しものは何ですか）	01	前 期	2 単位	倉 本 香
	02	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 <p>「なぜ自分だけが不幸なのか？」と疑問を感じてしまうとき、あるいは、「私は一体どれ？」という問いにとりつかれてしまったとき、現代の宗教は私たちにどのような世界解釈を提供してくれるのだろうか。さらに言えば、このような問いを発してしまう私たち自身は、今、どのような状況に投げ出されて生きているのだろうか。一体、自分の人生を生きているという確かな実感をどこに探ればいいのか。</p> <p>この授業では、これらの素朴で、かつ深遠な問いをビデオやプリントを使って常に受講生の皆さんに投げかけ、皆さん自身にこれらの問いに対する解答を探ってってもらいたいと思います。従ってこの授業の重点は、学問的な知識の提供ではなく、皆さん自身が「自ら考える」という点にあります。考えることに挑んでみましょう。あなたの探しものは何ですか？</p>	【講義計画】 1・現代社会と宗教—信仰に対する違和感はどこから来るのか— 2・新新宗教について 3・僕が僕であるために、私が私であるために 4・命を削る場所とは？—生徒であることを通して見た現代社会の問題— 5・目隠し構造を暴く—本当の自分にたどり着ける？— 6・神の前では皆平等ってほんとうですか・・・ 7・「宗教」のレトリック 8・私たちの探しもの			
【成績評価の方法】 <p>レポート、自己評価</p>	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ（古代インドの自由思想Ⅰ）	01	前 期	2 単位	杉 岡 信 行
	02	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 <p>古代インドの思想・宗教は、祭祀主義のバラモン教が主流であった。ところが、紀元前5、6世紀に北部インドを中心に祭祀主義に異を唱える自由思想家たちが多数輩出した。バラモン教徒たちは、世俗の中であって、世俗生活を肯定していた。一方、自由思想家たちは、超俗を尊び、出家主義を宗としていた。自由思想家の中でも仏教の開祖であるゴータマ・ブッダとジャイナ教の祖師マハーヴィーラは最も有名である。授業では自由思想家たちの思想と宗教活動について見ていく。</p> <p>また、古代インドの宗教を考えるとともに、現代における宗教の意味と意義について考えていきたい。</p>	【講義計画】 1) 古代インドとバラモン教 2) 6人の自由思想家（六師外道） 3) ジャイナ教の宇宙観 4) ジャイナ教の業思想 5) 輪廻からの解脱 6) ジャイナ教の実践道 7) 仏教とジャイナ教 8) 宗教と差別			
【成績評価の方法】 <p>期末試験により評価する。</p>	【参考文献】 『バラモン教 原始仏典』中公バックス 世界の名著 長尾雅人編 中央公論社			
【教科書】 <p>『宗教と救済』 山口恵照他編著 ナカニシヤ出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術 I (現代の宇宙論)	01	前 期	2 単位	桑 原 雅 子
	02	後 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 現代の宇宙論は20世紀科学が到達した頂点のひとつである。天文学、素粒子物理学、さらに観測装置や人工衛星など技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の始源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。物質世界の統一的記述に一応成功しつつあるといえる。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく講述することは、担当者にとっても至難であるが、チャレンジしてみよう。 また講義をとおして、現代科学の方法、科学と技術の分ち難い関係、基礎科学の進展と国家の科学技術政策のかかわりについて考えるきっかけを提供したい。宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることである。コスモロジーとしての人文的要素も、おりにふれ考察の対象とする。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 期末試験による。 授業中に課する提出物の内容を副次的に考慮する。	【参考文献】 講義中に提示する。			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術 I (エネルギー問題の科学技術)		後 期	2 単位	後 藤 邦 夫
【講義概要・学習目標】 文明社会は莫大な量のエネルギーの消費の上に成り立っている。たとえば、経済活動と市民生活を支えるために日本が輸入する石油、天然ガス、石炭などの化石燃料は年間数億トンにのぼる。そのほかに、放射能などの問題を抱えたまま原子力発電所を多く稼働させている。エネルギーの安定供給はわれわれにとって死活問題である。 このエネルギー問題の科学技術的側面として、資源の探査と採掘、輸送と貯蔵、転換と精製、配分システム、効率的利用などがあり、いずれも今日の科学技術の重要課題である。しかも、その基底には「エネルギー原理」と「エントロピー原理」という、われわれの自然認識の根幹にかかわるテーマがある。これらを出来るだけ平易に解説し、エネルギー問題の重要性と原理的問題を認識してもらうのがこの授業の目的である。	【講義計画】 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) エネルギー問題理解のための基本事項。 (2) 化石燃料資源の探査と採掘。 (3) 化石燃料の精製、加工、転換。 (4) エネルギーの動力利用。 (5) エネルギー・システム概念と有効利用。 (6) エネルギー科学の基礎的原理。 (7) エネルギー問題と社会科学。			
【成績評価の方法】 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	【参考文献】 おびただしい良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他にテーマごとに授業中に示す。			
【教科書】 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ (戦後日本の技術発達史)	01	前 期	2単位	並 川 宏 彦
	02	後 期	2単位	
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
戦後50年、技術革新の激しい時代。戦時体制から高度経済成長期を経て、現在は高度情報社会へと移行している。この中で、技術革新は社会生活に大きな影響を与えている。本講義では、戦後日本の技術発展の歴史を振り返り、最新の技術動向とその社会的影響について学ぶ。特に、エネルギー、材料、情報技術、生命科学などの分野に焦点を当て、その発展の背景と今後の展望について考察する。また、技術革新に伴う倫理的課題についても議論する。	。分中業、発 る区の工ど術 す期こ車な技 に時。動業後 確、る自工職。 明てべ、学、る をい述業化てず かつを力、し講 何に要電業そて は展概、工、い と発の業維べつ 学済そ鋼織述に 科経て鉄、を力 、とし、業程術 か新に業工過技 何革確工子展の は術明学電発本 と技を化・の日 術の微油気術び 技後特石電枝よ 、戦の・炭業色 に、期炭業色 初て時石工工特 最い各、船別の 統とで造個達			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
レポートの提出を課す。前期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。	最初の授業の日に参考文献を示す。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ (技術と社会、人間の倫理)		前 期	2単位	種 田 明
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
人間疎外、環境破壊(地球温暖化)、遺伝子操作(クローン生物)、最近では環境ホルモン問題など、地球と人間(性)の現在、将来を脅かすものとなった科学技術は、人間の倫理といかに関わっているのか。人類に多くの進歩と恩恵をもたらした技術は、私たちの社会の中で価値中立的なものだったか。技術をめぐる諸問題を歴史の流れの中に置き、討究していく。	テキスト(序+16=17章)から13章を解説し、具体例を交え討義する。 例えは" 序章 21世紀文化の課題 第1章 鉄腕アトムの人間性 第2章 印刷術と火薬と羅針盤 etc. (後田谷)			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
期末レポート(1000字以上)による。	講義中に紹介・指示する。 (注、テキスト各章末にも示されている。)			
【教科書】				
加藤尚武『技術と人間の倫理』 NHK出版, 1996				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (生命を操る技術の光と陰)	01	前 期	2単位	鈴木善次
【講義概要・学習目標】 今日、人類は自分自身を含め、生物の性質を自分たちの目的にあわせて作り変える技術を手にした。いわゆるバイオテクノロジーである。DNA組み換え技術、細胞融合、人工授精、クローン技術などがその例であるが、それらには光(メリット)と陰(デメリット)があり、単純に歓迎できるものでもない。 本講義では上記の点について説明し、学生諸君にその是非を検討してもらう。それを通して科学技術に対する意思決定能力を育ててもらう。	【講義計画】 1. 生命を操る技術概観 2. DNA組み換え技術とその課題 3. 細胞レベルでのバイオテクノロジーと問題点 ① 細胞融合 ② 人工授精(体外授精) ③ クローン生物 4. 臓器移植技術とその問題点			
【成績評価の方法】 講義中に求める感想文と期末テストの結果を総合的に判断して評価する。	【参考文献】 講義の際に紹介する。			
【教科書】 とくになし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (生命を操る技術の光と陰)	02	後 期	2単位	鈴木善次
【講義概要・学習目標】 今日、人類は自分自身を含め、生物の性質を自分たちの目的にあわせて作り変える技術を手にした。いわゆるバイオテクノロジーである。これにはDNA組み換え、細胞融合、人工授精、クローン、臓器移植などの技術が含まれているが、それらには光の部分と陰の部分がある。 本講義では上記の諸技術を紹介し、学生諸君とともにそれらの是非を検討する。それを通して科学技術に対する意思決定能力の育成を目指す。	【講義計画】 1. バイオテクノロジー概観 2. DNA組み換え技術とその課題 3. 細胞レベルでのバイオテクノロジーとその問題点 ① 細胞融合 ② 人工授精(体外授精) ③ クローン生物 4. 臓器移植技術とその問題点			
【成績評価の方法】 講義中に求める感想文と期末テストの結果を総合的に判断して評価する。	【参考文献】 講義の際に紹介する。			
【教科書】 とくになし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (地球生物の来し方・行く末)		後期	2 単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらためていうまでもなく、人間は生物進化の産物である。その人間が「地球にやさしく」などというのは、人間の思い上がりである。百億年の寿命をもつ地球から見れば、人類の活動など、ほんの一瞬のできごとにすぎない。環境破壊によって人間自体が絶滅しても、やがて地球には緑が回復し、新たに進化した動物が海にも陸にも満ちあふれることだろう。</p> <p>この講義では、ビッグ・バンに始まる宇宙の歴史の中で、地球に生命体が誕生し、人間という知性体が登場した経過を探求する。さらに、地球外生命体の可能性や、人類と地球の将来などについて考察したい。</p> <p>授業は、CD-ROMやV I D E Oなどの映像資料を利用した楽しいものにしたが、遅刻や私語には厳しく対応する。</p> <p>最初の授業時に、毎回の講義内容を示した講義予定表を配布する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の誕生 2. 大量絶滅の謎 3. 生命の起源と宇宙人探査 4. 最初の地球生物 5. 酸素の役割 6. 陸生生物の出現 7. 脊椎動物の進化 8. サルからヒトへ 9. 現生人類への歩み 10. 社会的機能を担った性行動 11. 利他行動の起源 12. 『ジュラシック・パーク』のうそ 13. 遺伝子工学と生殖革命 14. 地球と人類の将来 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。この小テストの結果を総合して評価する。ただし授業の状況によっては、期末テストを実施し、これと小テストを総合して評価する場合もある。</p>		[参考文献]		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (世界の採集狩猟民)		前期	2 単位	尾本 恵市
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業では、人類の進化に伴う生活技術の発展を概説する。前期には、人類の歴史の時間的に99パーセントを占める採集狩猟の生活技術について学ぶ。先史人類学からの情報だけでなく、現代も地球の各地に採集狩猟民がいることを、映像（ビデオおよびスライド）を多く使用して視覚的に知ってもらおう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>ビデオ・スライド等を利用して、視覚的に理解することを重視する。レポートを提出しそれに基づいてディスカッションを行う。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席点およびレポート評価。</p>		[参考文献]		その都度指定する。
[教科書]				
未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (害虫とたたかう)	01	前 期	2単位	巖 圭 介
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>人間は有史以来さまざまな昆虫とたたかってきた。人間に直接害を与える昆虫や、病気を媒介する昆虫、そして農作物を加害し横取りしようとする昆虫。とくに農業の歴史は、害虫との絶えまないたたかひの歴史でもあった。</p> <p>化学合成殺虫剤の発明は害虫とのたたかひにピリオドを打つかに見えた。ところが殺虫剤などの農薬は、人の健康を害し、野山の生き物を殺し、環境を破壊し、その一方で害虫の数はいっこうに減ることがない。農薬に頼り切ってきた過去50年の農業が、今転換期を迎えようとしている。</p> <p>この授業では、人間の害虫とのたたかひの歴史をたどり、開発されてきたさまざまな技術を概説する。それを通して、ただ単に害虫防除のことを知るといっただけでなく、日々何気なく口にしてる野菜や果物がどれだけの苦勞をかけて作られていて今農業がどういふ状況にあるかという【食】の問題について関心を持ってもらいたい。</p>	<p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・害虫防除史 ・いろいろな害虫 ・米百姓の永きたたかひ ・農薬のすべて ・害虫はなぜはびこる ・天敵の話 ・530億匹の闘い：ウリミバエの根絶 ・ラブコールの妨害：フェロモン ・総合的害虫防除 ・有機農業 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>論述式の期末試験に加え、授業中に数回提出してもらい感想文により判定する。</p>	必要に応じて授業中に示す			
[教科書]				
とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (滅びゆく生物)	01	前 期	2単位	巖 圭 介
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から取奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして私たちは何をすればいいのだろうか。</p> <p>この講義では、生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していくが、同時にこの地球に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかということを考える機会としてもらいたい。</p>	<p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然の関わり ・原生林の保護 ・里山の成立と破壊の歴史 ・ウェットランド ・生活史の理解 ・滅びゆく生物が直面する遺伝的問題 ・侵入生物の脅威 ・生物の有効利用と乱獲 ・なぜ生物を守らねばならないのか 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>論述式の期末試験に加え、授業中に数回提出してもらい感想文により判定する。</p>	必要に応じて授業中に示す			
[教科書]				
とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (農耕民と牧畜民)		後期	2単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] この授業では、人類の進化に伴う生活技術の発展を概説する。前期の採集狩猟の生活技術に引き続き後期の授業では、農耕民と牧畜民の生活技術を映像（ビデオ・スライド）を使用して、視覚的に知ってもらう。	[講義計画] ビデオ・スライド等を利用して、視覚的に理解することを重視する。レポートを提出しそれに基づいてディスカッションを行う。			
[成績評価の方法] 出席点およびレポート評価。	[参考文献] その都度指定する。			
[教科書] 未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅰ)		前 期	2単位	井 田 和 子
[講義概要・学習目標] 現代文明を特徴づけている科学と技術とは、い、たいどのような科学・技術をさすのか。科学技術はどこへ行こうとしているのか。科学や技術が産業構造だけでなく、社会や政治、さらには人間の生存そのものにも、かかわりあいをもつものになってきた。身近な地域の公害問題を解決し、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急務である。	[講義計画] 1. 水環境：水の特性と働き，水の循環，都市に水を安定供給する方法，河川水の水質汚濁 2. 大気環境：環境大気の構造と組成，環境大気の汚染物質，光化学スモッグ，ヒート・アイランド 3. 土環境：土壌の誕生と機能，都市土壌の特徴，土壌汚染，市街地の土壌汚染の防止。 4. 環境資源としての森林の働き。 5. 有機塩素系化合物（環境ホルモン）の毒。			
[成績評価の方法] 期間中に数回のレポートを書いてもらい，期末テストの結果とあわせて評価する。	[参考文献]			
[教科書] 印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅱ)		後 期	2 単位	井 田 和 子
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>歴史の歩みのなかで科学や技術はどのような役割を果たしてきたか。人間社会の未来に対してどのようにかかわりあっているのか。科学技術が経済構造、社会や政治、人間そのものにまじり、深いかかわりを持つようになってきた。生産者ではなく、消費者主導の、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急がれる。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オゾン層の破壊：破壊機構とフロンガス 2. 地球の温暖化：温暖化と化石燃料、温暖化の影響 3. 酸性雨と環境の酸性化：高度工業化と酸性化問題 4. 熱帯林減少と気象への影響と経済問題 5. 環境破壊と生物多様性の減少 6. 人為的原因の砂漠化 7. 海洋の有機塩素化合物汚染 8. 環境問題と科学技術 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期間中に数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。</p>	<p>【参考文献】</p>			
<p>【教科書】</p> <p>印刷教材 (一心社印刷・製本) 井田和子著 環境問題と科学技術</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ (情報の数理)	0 1	前 期	2 単位	井 上 勤
	0 2	後 期	2 単位	
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>情報科学を学ぶ者諸君に対して情報基礎数学を講義する。応用面として情報の生成は(と)論理回路の設計はコンピュータ原理と密接な関係があることに触れる。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎 (集合、関数、順列・組合せ、基数法) 2. 論理 (論理代数、ブール代数、論理ゲートと論理回路) 3. グラフ理論 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>主資料は定期試験の成績と平常授業の出席状況。また講義への積極的参加の総合評価である。</p>	<p>【参考文献】</p>			
<p>【教科書】</p> <p>柴田正憲、浅田由良 共著 情報科学のための離散数学 コロナ社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ（「情報」を科学で扱う）		後 期	2 単位	後 藤 邦 夫
【講義概要・学習目標】 コンピュータの中で「情報」が処理され、通信回線や電波を通して「情報」が世界中を駆け回っている。そこでは科学や技術が中を利かせているが、一体「情報」（あるいは知識）を「科学的に扱う」とはどういうことであろうか。たとえば、文学等で言葉を扱うのとどう違うのだろうか。歴史的な話題をも取り上げながら、われわれが行ってきたことを振り返ってみる。いわば、「対話と手紙」から「インターネット」までを、出来るだけ共通のモデルによって考えてみようというのである。そのモデルは「科学」にとっては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」をどのように変えたか。これから否応なしに人工的な情報処理の世界に入ってゆく学生諸君に、一度考える機会が提供できれば幸いである。授業はできるだけ具体的な問題を選んで行うが、その中で基礎的な理論の輪郭を理解してもらえようようにしたい。	【講義計画】 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) 言葉とコミュニケーションを扱う「ブロック図モデル」。 (2) 文字情報の生成と伝達（印刷と出版のシステム）。 (3) 電気通信における「符号化」の役割。 (4) 「ことば」と「波」（電波による情報の大量輸送）。 (5) 「言葉」と「論理」（コンピュータの着想）。 (6) 情報の理論的基礎（シャノンの理論）。 (7) コンピュータにおける情報の働き。			
【成績評価の方法】 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	【参考文献】 部分的な問題については、おびたしい良書がある。しかし、このテーマを一貫して扱った本は意外に少ない。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。			
【教科書】 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ (情報とコミュニケーション)		前 期	2 単位	真 庭 功
【講義概要・学習目標】 インターネットが世界をネットワークしている。ワールド・ワイド・ウェブによる情報検索をはじめ、電子メールやマルチメディアの活用により電脳空間が急速に拡大し、携帯電話、カーナビゲーション、衛星放送などの衝撃も加わって、社会はデジタル革命の様相となっている。 授業では、現在の情報技術や通信技術について概説する。これらの技術が生活空間や文化創造を支援するための方法を考える。 ビデオ教材などを活用して理解を深め、双方向の論議の一助にしたい。 電子メールでの意見発表を試みる。 レポートは新鮮な目で興味をもって調べ、考えることを期待している。	【講義計画】 1) 激増するマルチメディア商品群 パソコン、CD-ROM、携帯電話、テレビなど 2) 情報と通信の基礎知識 広がるデジタル情報の世界 3) 情報と通信を支える技術 半導体、ソフトウェア、ネットワーク 4) 情報革命や通信革命がもたらすもの（光と影） 電脳社会と仮想現実の世界 5) ネットワーク時代の課題と展望			
【成績評価の方法】 数回のレポートとテストの総合評価。出席は3分の2以上が必要。	【参考文献】 島野 清志 著『情報・通信産業』 ぱる出版 井上 信雄 著『通信・ニューメディアがわかる事典』日本実業出版社			
【教科書】 必要に応じて指示する。 ・ビデオ教材と、プリント教材の配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術IV (情報の時代を生きる)	01	前期	2単位	藤間 真
	02	後期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代は情報の時代だと言われる。情報の入手・処理・発信のどの側面をとっても、現代ほど強力なツールを個人が所有する時代は過去なかった。これはパソコンを始めとする情報処理技術、WWWを始めとする通信技術の進歩に追うところが大きい。</p> <p>本講義では、情報の時代を今生きる者として、流されずに主体的に生きる為には何かが必要かという視点から、基礎知識を伝授した上で問題提起を行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・講義中に実習を行う予定はない。もともと最低限の利用法は実演する。 ・初心者に対するコンピュータ利用法の伝授を目的とはしていない。 ・成績評価をレポートで行うということは、単なる丸暗記や丸写しによる単位取得を排除する意図で行うものである。 <p>連絡は掲示を通じて行うので、常に掲示に留意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報とは何か ・パソコンについて ・インターネット概説 ・現代における暗号 ・デジタルとアナログ ・マルチメディアとは何か ・信用における情報とは ・情報の時代の対人コミュニケーション ・情報の時代をどう生きるか 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の出席レポート及び学期末レポートで総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				